

平成 30 年 度

事業報告書

(事業報告 ・ 附属明細書)

自：平成 30 年 4 月 1 日

至：平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 つどいの家

－ 目 次 －

I	法人経営に関する事項	1
	1. はじめに／理事長総括	1
	2. 経営ビジョン実現に向けての取り組みと評価	1
	3. 財務状況・財産状況	3
	4. 広報・啓発活動に対する取り組み	3
	5. その他の法人経営に関する取り組み	4
II	法人の現況に関する事項	6
	1. 法人概要	6
	2. 役員・評議員等の状況	7
	3. 理事会開催の状況	8
	4. 評議員会開催の状況	10
	5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	10
	6. 監査等の状況	12
	7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	12
	8. 地域における公益的な取組の状況	13
	9. 職員の状況	13
III	事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）	16
	1. 仙台つどいの家	16
	2. つどいの家・コペル	19
	3. つどいの家・アプリ	22
	4. 八木山つどいの家	25
	5. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	28
	6. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」	30
	7. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」	33
	8. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	35
	9. グループホーム（共同生活援助事業）	38
IV	参考資料	41
	1. 利用実績（日中活動支援事業部門）	42
	2. 利用実績（地域生活支援事業部門）	46
	3. 寄附金受領状況	60
	4. 補助金・助成金受領状況	62
	5. 地域における公益的な取り組みに関する状況等	63

I 平成30年度 法人経営に関する事項

1. はじめに / 理事長総括

国は、財政難の中、少子高齢化による社会保障費の伸びを抑えるために、一人当たりの年金や給付費を下げることで凌いでいて、社会福祉法人には自立した経営をするようにと迫っている。共生社会の実現に努力せよというのだ。しかし、それだけの体力もないままに、競争社会に投げ出されてしまって前途が見えない状態である。自立した経営は難しいが、突き進むしかない。

従って、当法人としても制度改革に向かつての基盤整備をすすめてきた。しかし、内部統制組織改革や、事業継続に必要な体制維持、修繕や職員確保のために積立資金の大半をつぎ込まざるを得なかった。昨年度は大幅な赤字会計であった。何とかすべく今年度は、制度をフル活用し加算を取り、全体としての赤字は食い止めたが、相談支援事業やグループホーム・ヘルパー事業は依然として赤字で、通所施設会計から補っている状態である。しかし通所施設も課題があり、老朽施設（コペルのボイラー等）の修繕がある。今まで蓄えた修繕積立金や、施設建設積立金も法人全体の運営資金に回さざるを得ず、銀行から借金して修繕せざるを得ない。そこで、30年度は、建設資金募金を広く呼びかけた。建設資金2500万のうち500万は寄付で賄おうと呼びかけたところ約400万が集まった。何とか目途がついた。

しかし、利用者にとっていま一番必要な資源の創設は先延ばしだ。

社会福祉法人の理念は、寄付社会（共生社会）をつくることにある。地域の方々にしょうがいのある人への理解を得る啓発活動と共に、もう一つ踏み込んで市民や企業の方々に、資金面での援助を求めること。行政に働きかけ、当事者の声を届けること、要望活動をすることも大切である。役員、職員、消費者（本人、家族）が、一丸となって取り組まなければ、共生社会づくりは簡単ではない。

2. 経営ビジョン実現に向けての取り組みと評価

経営ビジョン 1 しょうがいのある人の差別をなくし、地域生活に必要な資源を生み出す

- 本人の意思を無視することは差別であることの認識で意思決定支援に力をいれている。
- 権利擁護、虐待防止委員会が虐待防止ガイドライン運用と意識向上につとめている。
- グループホームの増設が急がれるが、資金調達と人材確保の目途が立たない。当面、法人の基盤整備に力を入れようと、まずは赤字解消・人材確保の方策を練り、見通しを立てることに力を注いできた。基盤整備は数年かかる。当事者・家族を含めて考えていきたい。

経営ビジョン 2 地域社会の支援を受け、参画を促し、法人で培ったものを還元する福祉の街づくり、共生社会の実現をめざす

- ホームページのリニューアルで、求職者が覗くようになり若者の関心がふえた。
- 法人広報「つどい」発行2回。各事業所も毎月あるいは隔月に便りを発行し地域に配布。また河北新聞に寄付の呼びかけを乗せるなどで、応えてくれる人がでてきた。
- 障害者理解のための啓発活動として講演会（自閉症の方の母親・明石洋子氏「地域のなかでありのままに生きる」）を実施。アンケートには発達障害者も地域で生きていけると勇気が出たなどあり、好評であった。

経営ビジョン 3 地域の人や利用者をはじめ社会に信用され、選ばれる存在であり続ける

- 各所毎にケース会議に力を入れると共に、相談事業、事業運営会議等を通して、横断的に地域

資源と情報交換をしながら、本人の意思を大切にしたい支援に努めている。

- 防災マニュアルの見直しを進めている。定期的な防災訓練実施で、利用者や近隣の人々の安心安全を目指している。
- 苦情解決委員会の開催により、利用者や、近隣の方の苦情に真摯に対応している。
- 労働環境について意識改革を行った結果、昼休みの確保や休日の確保などスムーズになった。
- 若者雇用促進法に基づいた採用・育成・雇用管理に努め「ユースエール認定企業」となった。

経営ビジョン 4 経営基盤をゆるぎないものにする

- 財務基盤の確立には、まず大幅な赤字の解消に取り組まなければならなかった。従って、制度を熟知し活用すること・補助金や加算を受けること・そして、コスト削減のために雇用形態別の業務量を把握すること・常勤・非常勤職員の適正な配置を図ることで人件費削減をするなどに取り組んだ。この当たり前なことが難しい。数年かけて取り組みたい。
- 支出は抑えることができなかったが、ホームページや会報で寄付の呼びかけを行い、寄付金収入は増えた。後援会員増口運動は、頭打ちである。
- 企業の CSR 活動との連携の模索を掲げていたが、思うようにできなかった。
- 経営のガバナンス強化のための組織改革を行ったことで、執行機関である理事会及び決定機関である評議員会、起案をあげる経営会議、地域生活諮問委員会等の役割分担が、少しずつ見えてきた。地域福祉の中心である家族や市民の役割があるはずだが、もどかしい。
- サポートセンター（支倉・若林・南光台）の各事業赤字体制の実態から組織編制変えをした。相談支援事業は支倉と南光台が統合することで管理運営がしやすくなった。またヘルパー事業は特定事業加算を取得するために若林と南光台が役割分担した。目的に沿ったコーディネートをしやすくなることや、加算が付くことで赤字解消に繋がればいいという思いからである。グループホームの管理センターの創設や、レスパイトサービスの環境整備等、課題はたくさんあるが、資金、人材、土地建物の確保が出来なければ実現できない。これらの基盤を確立しなければ次なる資源・グループホームなどの建設は、まだ遠い。

経営ビジョン 5 職員も仕事を通じて自己実現ができる環境をつくる

- 人材育成に力を入れる。
職員研修委員会を中心に夕方の時間を使って企画実施している。非常勤職員には法人設立記念日を利用者の休日として、研修日を設けて職員たちに好評だった。今後登録ヘルパーにも研修機会を作りたい。1日利用者に休んでいただくと減収になるので、工夫が必要だ。
- 「資格取得奨励金」及び「資格手当」を創設したが、挑戦する人が僅かである。危機感がなく、資格がなくてもやれると思っている。さらなる奨励をしなければ、意欲は育たないのだろうか。
- 対話のある楽しい職場づくり
研修会では、小集団による座談会形式の自由な話し合いの場を設けている。事業者間の交流もあり、楽しみにしているようだ。しかし、夜の忘年会や、歓送迎会などは、子育て中で出られない人が多い。勤務時間中はみんな余裕がなく、対話の時間がとりにくい。
- 衛生委員会を中心に、職員の腰痛予防や体力増強のために、区の保健婦の出前講座で「食事」に対する意識向上を図り、事業所ごとにラジオ体操や腰痛体操を始めた。
- 産休、育児休業、介護休業制度をフルに活用していて、子育て世代の退職者はいない。

3. 財務状況・財産状況

(1) 財務状況の推移

(単位：千円)

勘定科目	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
サービス活動収益(1)	842,412	809,122	757,794	4.1 %
サービス活動費用(2)	877,047	837,680	803,514	4.7 %
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 34,635	△ 28,558	△ 45,720	－ %
サービス活動外増減差額(4)	11,548	12,528	12,261	△ 7.8 %
経常増減差額(5=3+4)	△ 23,087	△ 16,030	△ 33,459	－ %
特別増減差額(6)	12,924	12,746	15,966	1.4 %
当期活動増減差額(7=5+6)	△ 10,163	△ 3,284	△ 17,493	－ %

(2) 資産・負債等の推移

(単位：千円)

勘定科目	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
資産合計	1,192,058	1,212,163	1,247,005	△ 1.7 %
負債合計	210,210	186,895	186,534	12.5 %
純資産合計	981,848	1,025,268	1,060,471	△ 4.2 %

(3) 借入金の状況

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

借入先	借入用途	元金残高(千円)
独立行政法人 福祉医療機構	コペル建設資金	1,920
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	6,461
独立行政法人 福祉医療機構	アプリ土地取得・建設資金	49,380
独立行政法人 福祉医療機構	さくらはうす(GH)災害復旧資金 ※完済	0
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	34,344
宮城第一信用金庫	ひこうき雲(GH)土地取得資金 ※完済	0
(借入金 合計)		92,105

※平成 30 年度新規借入額：なし

(前年度より 10,756 千円減)

(4) 補助金・寄附金等の状況

(単位：千円)

補助種別	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	前年度比
事業運営費	92,779	92,354	99,384	0.5 %
人件費(職員加配)	35,012	33,164	37,718	5.6 %
施設設備整備等	1,900	7,791	8,779	△ 75.6 %
その他	34	47	395	△ 27.7 %
寄附金	25,447	23,051	20,096	10.4 %

※詳細は、「Ⅳ 参考資料」に掲載

4. 広報・啓発活動に関する取り組み

(1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第 26 号 平成 30 年 9 月 1 日発行(発行部数：1,100 部)

同 第 27 号 平成 31 年 3 月 31 日発行(発行部数：1,100 部)

(2) ホームページによる情報開示

従来通り、社会福祉法並びに法人定款に規定する福祉サービスの質の向上と事業経営の透明性の確保を図るため、法人の現況報告書や財務諸表等の情報をホームページ上で開示するのみならず、スマートフォンの普及に伴い、Web媒体を通して、外部からの共感や様々な支援を得ること、または求職者の裾野を広げ、人材確保に繋げることを目的に法人及び事業運営に係る取り組みを積極的に発信しました。 ※ホームページ内「ブログ機能」を活用した情報発信件数：149件

また、寄付金募集ページのリニューアルを図るため、事務職員を中心とした勉強会を適宜実施し、訴求力を高めるための方法等を検証、次年度実現に向けて取り組んでいます。

(3) 啓発活動

しょうがいのある方の人権と差別のない社会の構築を目指す法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として以下の講演会を開催（つどいの家後援会との共催）しました。

内 容 共生社会を考えるセミナー

「地域の中でありのままに生きる ～共生社会をめざして～」

演 者 明石 洋子 氏（社会福祉法人あおぞら共生会 副理事長）

日 時 平成30年10月25日（木） ※2回講演

場 所 宮城野区文化センター シアターホール

入場者数 194名

アンケート回収率 46.9%（91名）

成 果 等（参加者からの意見より/アンケート一部抜粋）

- ・「今回のお話を今後の本人支援に活かしていきたい」、「私たちも「倅に生きる」をテーマにこれからも考え、行動していきたい」、「私たち支援者も、地域でご本人中心の暮らしを支えていく上で、ご本人が本当に望む支援を選択できる共生社会を志していきたい」など
- ・その他、法人ホームページ等により公表

5. その他の法人経営に関する取り組み

(1) 福祉サービス等における苦情対応など

【苦情解決委員会実施状況】

日 時	協議内容	出席者数
第1回 H30.10.17（水）	平成30年度上半期（4～9月）における苦情受付内容 および解決に至った経過検証など	第三者委員 2名／3名 受付担当者 8名／9名 解決責任者 7名／8名
第2回 H31.3.11（月）	平成30年度下半期（10～3月）における苦情受付内容 および解決に至った経過検証など	第三者委員 2名／3名 受付担当者 6名／9名 解決責任者 5名／8名

【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
仙台つどいの家	事故に対する施設側の対応の遅れに対し苦情／家族	解決済
つどいの家・コペル	帰宅時の利用者の衣服の乱れに対する苦情／家族	解決済
	作業報奨金配布時のミスに対する苦情／家族	解決済

	事前連絡なしにバザー品を引き取りに伺ったことに対する苦情／近隣	解決済
八木山つどいの家	車両へのいたずらに対する苦情／近隣	解決済
	小学校の夏祭りに1人で来る利用者に対する苦情／近隣	解決済
	近隣を裸で歩き回る利用者に対する苦情／近隣	解決済
	通信誌の発送ミスに対する苦情／家族	解決済
	寄付金として頂いた大量の小銭を数え間違えたことに対する苦情／家族	解決済
ピボット若林	ヘルパーの利用を断られることに対する苦情／家族	解決済
※合計10件（内訳）利用者のご家族からの苦情 6件、事業所の近隣住民からの苦情 4件		

(2) 法人が直面する財務上の課題解決に向けた取り組み

法人を取り巻く経営環境は大変厳しい状況にあり、経常増減差額も3期連続で赤字決算となるなど、事業活動の維持継続すら危ぶまれるほどに困難を極めていました。平成30年度障害福祉サービス事業等の報酬改定が行われましたが、なおその厳しい状況に変わりはありませんでした。法人の基本理念の実現と将来にわたる社会的責務を果たすためにも、早急に財務状況を改善させ、経営基盤の強化・安定化を図るための具体的な方針と取り組みを必要としました。

これらを背景に、理事・管理職者を中心とした「経営戦略検討会議」を構成し、現状把握と課題解決に向けた具体的検証を行っています。その結果として、既存事業の一部再編や人的体制・管理機能等の集約・再編等を行い、(次年度見込を含め)増収に繋げることができました。

また、基幹財源(報酬・行政補助金)以外の資金獲得にも注力し、特に寄付金募集を含め、社会からの理解と共感を得るための取り組みにも努めました(寄付金受領状況は参考資料Ⅳに掲載)。

＜経営戦略検討会議実施状況＞

第1回 居宅介護等・グループホームの財務改善、体制強化等の検証等/理事・管理者等10名

第2回 相談支援事業の財務改善、体制強化等の検証等/同11名

第3回 生活介護事業の財務改善、体制強化等の検証等/同12名

第4回 今後の法人組織体系や管理・事務機能等の再編検証等/同9名

(3) 介護職員初任者研修事業創設に向けた取り組みや働き方改革の対応など

前記の財務上の課題とともに、人材不足の問題は社会的にも厳しさを増す中で、新たな福祉人材の確保や職員のキャリア形成の仕組み構築、人事システム等の抜本的な見直しを行うことも法人にとって重要な課題のひとつでした。

その課題に取り組むにあたり、法人として介護職員初任者研修の事業化を検証するため、法人内にプロジェクト委員会を構成し、平成31年度開設に向けた検討を行ってきました。

また、平成31年4月に施行される働き方改革への対応や前記事業再編による業務の効率化・合理化を一層進めるため、勤怠管理システムの導入についても集中的・優先的に検討を行いました。

(4) その他事務手続き

◆ 登記に関する事項

- ・資産総額変更登記(6/28)
- ・抵当権抹消登記 /ひこうき雲土地(4/27)
※4/2 弁済
- ・抵当権抹消登記 /さくらはうす土地建物(10/12)
※8/15 弁済

◆ 民間団体等助成事業への申請状況

- ・公財)24時間テレビ
(びぼっと南光台送迎車両) …採択
- ・中央競馬馬主社会福祉財団施設整備等助成事業
(グループホーム送迎車両) …採択

- ◆ 行政手続き
 - ・社会福祉法人現況報告書等提出/仙台市 (6/28)
 - ・定款変更認可申請/仙台市 (7/18 認可)
 - ・若者雇用促進法に基づく基準適合事業主認定申請 /県労働局 (ユースエール認定企業として 3/7 認定)
 - ◆ 仙台市長への要望書提出
 - /仙台市知的障害者関係団体連絡協議会共同提出 (平成 30 年 7 月 17 日付提出、9 月 7 日回答)
 - (1) 仙台市重度重複障害者等受入通所施設等運営費補助金(重度加算)の継続実施等について
 - (2) しょうがい者理解を深める啓発活動の実施を含み、官民が協働して福祉人材の確保に繋がる機会の創出について
 - 以上が、法人より提出した要望事項である。
 - うち、(2)については、10 月 24 日に仙台市が主催する「ココロン☆ワークススペシャル」と題した学生と障害福祉事業所に勤務する職員及び仙台市職員とが交わり、意見交換等を行う場として実施された。
 - ◆ 契約執行に関する事項
 - (1) コペル衛生設備等改修工事 設計(基本・実施)業務・随意契約
 - ※契約日：平成 30 年 4 月 23 日
 - ※委託業者：(株)環境総合設計東北支社
 - ※契約金額：1,231,200 円
- ・公財)森村豊明会 (コペル備品等購入) …採択
 - ・宮城県省エネルギー・コスト削減実践支援事業 (つどいの家・コペル衛生設備等改修) …不採択
 - ・一財)松扇会社会福祉事業助成 (グループホーム給湯器交換) …不採択
 - ・日本郵便年賀寄附金配分事業 (コペル衛生設備等改修、P 若林送迎車両) …不採択
 - ・丸紅基金社会福祉助成事業 (アプリ送迎車両) …不採択
 - ・他、日本財団福祉車両、ALSOK 福祉車両助成 …不採択
 - ◆ 法人内部規程・基準等の整備
 - ・定款施行細則 /改正
 - ・就業規則 /改正
 - ・賃金規程 /改正
 - ・経理規程 /改正
 - ・(各事業)運営規程 /改正
 - ・職員退職手当支給規程 /改正
 - ・職員の職名に関する規程 /創設
 - ・職員昇任昇級辞退申出及び降任降級申出 /創設
 - 制度実施要綱

II 法人の現況に関する事項

1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家
- (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田 1 丁目 17 番 58 号
- (3) 事業種別

第 2 種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、自立訓練(生活訓練)、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助) 相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営 移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営
公益事業	障害者家族支援等推進事業 福祉有償運送事業

- (4) 事業の種類及び名称など (平成 31 年 3 月 31 日現在)

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定 員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町 3	山口 収	生活介護	30 名	37 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	8 名

つどいの家・コペル	若林区上飯田 1	福地慎治	生活介護	40 名	45 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
つどいの家・アプリ	太白区山田本町	大累貴司	生活介護	30 名	32 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
八木山つどいの家	太白区八木山本町 1	佐藤秋男	生活介護	20 名	15 名
若林障害者 福祉センター	若林区遠見塚東	若生 滋	生活介護	9 名	11 名
			自立訓練(生活訓練)	6 名	1 名
ぴぼっと南光台	泉区南光台 3	飯田克也	指定特定相談	—	64 名
			指定障害児相談	—	10 名
			居宅介護等 ※1	—	68 名
			障害者家族支援等	—	93 名
			福祉有償運送	—	8 名
ぴぼっと支倉	青葉区支倉町	檜山智彦	指定特定相談	—	132 名
			指定障害児相談	—	60 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	265 名
			障害者家族支援等	—	95 名
ピボット若林	若林区遠見塚 2	山口 収	指定特定相談	—	121 名
			指定障害児相談	—	8 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	73 名
			居宅介護等 ※1	—	92 名
			障害者家族支援等	—	90 名
ひこうき雲	若林区沖野 3、他	飯田克也	共同生活援助	24 名	24 名

2 役員・評議員等の状況 (平成 30 年度内就任者の状況/平成 31 年 3 月 31 日現在)

(1) 理事・監事

(理事定数：6 名 監事：2 名)

役職名	氏 名	兼職状況	特殊関係等	理事会出席状況	備 考
理 事 長	下郡山 和子		なし	5 回／5 回(100%)	
常務理事	佐藤 吉久	職員・総務部長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	佐藤 清	市外郭団体理事長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	菅井 裕行	大学教授	なし	4 回／5 回(80%)	
理 事	山口 収	職員・日中活動支援部長	なし	4 回／5 回(80%)	
理 事	飯田 克也	職員・地域生活支援部長	なし	5 回／5 回(100%)	
監 事	三浦 俊一	金融持株会社監査役	なし	5 回／5 回(100%)	
監 事	内出 琢也	税理士	なし	2 回／5 回(40%)	

*任期：平成 29 年 6 月 15 日から平成 31 年 6 月の定時評議員会終結の時まで

(注) 社会福祉法第 40 条第 4 項及び第 5 項並びに社会福祉法施行規則第 2 条の 7 及び第 2 条の 8 に規定する欠格事由に該当する者又は親族関係にあるなどの特殊の関係にある者の有無をいう。

(2) 評議員

(評議員定数：7名)

氏 名	兼務状況	特殊関係等	評議員会出席状況	備考
高 橋 治	他法人理事長	なし	2回／3回(67%)	
細 井 実	他法人理事長	なし	2回／3回(67%)	
川 住 隆一	大学教授	なし	3回／3回(100%)	
久保野恵美子	大学院教授	なし	1回／3回(33%)	
萩野谷 和裕	県立病院副院長・医師	なし	1回／3回(33%)	
中山 伸枝	市教育局嘱託職員	なし	3回／3回(100%)	
井 上 博	他法人理事長	なし	3回／3回(100%)	
※監事の評議員会出席状況				
三 浦 俊一	金融持株会社監査役	なし	1回／2回(50%)	
内 出 琢也	税理士	なし	0回／2回(0%)	

*評議員任期：平成29年4月1日から平成33年6月の定時評議員会の終結の時まで

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数：3名)

氏 名	区分	委員会出席状況	備 考
三 浦 俊一	監 事	当該年度における 委員会開催なし	※互選により委員長就任
若 生 滋	事務職員		
後 藤 道子	外部委員		

*任期：平成29年1月28日から平成33年6月の定時評議員会の終結の時まで

(4) 地域生活支援諮問委員会

氏 名	区 分	委員会出席状況	備 考
下 郡 山 徹一	有 識 者	3回／3回(100%)	前理事長
阿 部 達	有 識 者	2回／3回(67%)	前理事
飯 塚 定男	地域代表	0回／3回(0%)	宮城野区社会福祉協議会会長
猪 狩 公子	地域代表	1回／3回(33%)	太白区山田町内会副会長
松 永 なおみ	地域代表	2回／3回(67%)	八木山地域包括支援センター所長
岡 本 浩行	地域代表	3回／3回(100%)	沖野東小防災関係スーパーバイザー(H29.5.28～)
高 橋 和	利用者家族	3回／3回(100%)	八木山つどいの家利用者の家族
阿 部 美佐	利用者家族	3回／3回(100%)	仙台つどいの家利用者の家族
安 藤 美弥子	利用者家族	2回／3回(67%)	つどいの家・コペル利用者の家族
坂 本 志乃	利用者家族	2回／3回(67%)	つどいの家・アプリ利用者の家族

*任期：平成29年4月1日から平成31年6月の定時評議員会終結の時まで

3 理事会開催の状況

月 日	議案内容	採決	役員出席
第1回 H30.6.1(金)	第1号 平成29年度事業報告に関する件	可決	理事5名 監事1名
	第2号 平成29年度決算報告及び監査報告に関する件	可決	

	第3号 つどいの家・コペル設備改修工事に関する件 《概要》コペルにおける給湯及び空調設備の交換・改修工事について資金計画、施工業者の選定等提案。	可決	
	第4号 平成30年度第1次補正予算案に関する件 《概要》総収入25,979千円、総支出25,979千円（収支差額0千円）の増額補正案について提案。	可決	
	第5号 定時評議員会の招集等に関する件 《概要》H29年度事業報告、H29年度決算・監査報告、H30年度補正予算案について承認を得るための評議員会開催案について提案。	可決	
第2回 H30.8.16（木）	第1号 管理者の人事に関する件 《概要》管理者退職に伴う取扱い及び後任人事案について提案	可決	理事6名 監事2名
第3回 H30.9.19（水）	第1号 職員昇任・昇級辞退申出及び降任・降級申出制度実施要綱案の創設に関する件 《概要》「昇任・昇級」を望まない職員や「降任・降級」を希望する職員のための実施要項の創設について提案。	可決	理事5名 監事1名
	第2号 常勤職員就業規則の一部改正案に関する件 《概要》第1号提案事項に伴う、常勤就業規則の一部改正案について提案。	可決	
	第3号 職員退職手当支給規程の一部改正案に関する件 《概要》職員退職手当支給規程対象者の退職に伴う、規程の一部改正案について提案。	可決	
	第4号 平成30年度第2次補正予算案に関する件 《概要》総収入64,403千円、総支出50,484千円（収支差額13,919千円）の増額補正案について提案。	可決	
	第5号 平成30年度第2回評議員会開催の省略に関する件 《概要》H30年度第2次補正予算（案）について承認を得るための評議員会開催について提案。	可決	
第4回 H30.12.11（火）	第1号 職員の職名等に関する規程案に関する件 《概要》職種・役職名をより明確にし、発令行為等の表記などを統一して取り扱うことが出来るよう規程の創設案について提案。	可決	理事6名 監事2名
	第2号 賃金規程改正案に関する件 《概要》「職員昇任・昇級辞退申出及び降任・降級申出制度実施要綱」の施行に伴う賃金規程の改正案について提案。	可決	
第5回 H31.3.22（金）	第1号 介護職員初任者研修事業創設に関する件 《概要》赤字経営の改善等につなげるため「介護員養成研修事業」の創設案について提案。	可決	理事6名 監事1名
	第2号 定款及び定款施行細則の一部改正案に関する件 《概要》理事長・常務理事の職務執行状況報告の期間変更や介護員養成研修事業創設等にもなう定款及び施行細則の一部改正案について提案。	可決	
	第3号 つどいの家・コペル設備改修工事に関する件 《概要》H30年度第1回理事会承認事項であるコペル設備改修工事の計画変更案等について提案。	可決	
	第4号 管理職人事案に関する件 《概要》定款に規定する平成31年度管理者人事案について提案	可決	
	第5号 諸規程の一部改正案に関する件 《概要》働き方改革、事業再編、介護員養成研修事業創設にもなう諸規程の一部改正案について提案。	可決	
	第6号 評議員選任・解任委員の選任に関する件 《概要》委員退任に伴う、後任委員について提案。	可決	

	第7号 平成30年度第3次補正予算案に関する件 《概要》総収入18,500千円、総支出5,000千円（収支差額△166千円） の増額補正案について提案。	可決	
	第8号 平成31年度事業計画案に関する件	可決	
	第9号 平成31年度当初予算案に関する件 《概要》総収入1,136,693千円、総支出1,134,728千円（収支差額965千円）の予算編成案について提案。	可決	
	第10号 第3回評議員会の招集等に関する件 《概要》H30年度事業計画、第3次補正予算・H31年度当初予算案の承認を得るための評議員会開催案について提案。	可決	

4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回(定時) H30.6.27(水)	第1号 平成29年度事業報告に関する件	可決	評議員 4名 監 事 0名
	第2号 平成29年度決算報告及び監査報告に関する件	可決	
	第3号 平成30年度第1次補正予算案に関する件	可決	
第2回 H30.10.16(火)	第1号 平成30年度第2次補正予算案に関する件	可決	評議員 6名 監 事 0名
第3回 H31.3.28(木)	第1号 平成30年度第3次補正予算案に関する件	可決	評議員 4名 監 事 1名
	第2号 平成31年度事業計画案に関する件	可決	
	第3号 平成31年度当初予算案に関する件	可決	

5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

(1) 評議員選任・解任委員会

開催なし

(2) 地域生活支援諮問委員会

月 日	報告事項他	出席者数
第1回 H30.7.26(木)	第1号 平成29年度事業報告について	諮問委員 9名
	第2号 平成29年度の決算概要の共有について	
	第3号 地域や施設における話題の提供、意見交換等	
第2回 H30.12.18(火)	第1号 後援会共催「明石洋子氏の講演会」報告	諮問委員 8名
	第2号 各事業所の地域における公益的取り組みと各地域や施設の課題についての意見交換	
	その他 つどいの家・アプリ見学	
第3回 *不成立 H31.3.7(木)	第1号 平成31年度事業計画案の報告及び意見聴取 その他 地域及び各施設等における話題等の提供	諮問委員 4名

(3) その他の会議・委員会

部門	会議名	主たる内容・成果	次年度への課題等	実施回数
主要会議	経営会議	各部門課題検証、市長要望、内規検討等		12回
	経営戦略検討会議	前述のとおり	中期計画の策定	4回
	人事委員会	人事全般等	報酬改定等対応	21回
	法人衛生委員会	快適な職場環境の見直し、労災事例検証、健診等の総括、感染拡大防止措置など		9回
	コペル衛生委員会	労働安全衛生法に定める事項の検証ほか		12回
	権利擁護・虐待防止委員会	権利擁護・しょうがい者への虐待防止全般にわたる検討。虐待防止ガイドラインの見直しなど		5回
経営部門会議	事業運営会議	事業運営の課題検証、財務課題の把握等		12回
	防災委員会	法人総合防災マニュアルの整備、事業所内避難所機能の在り方、無線機機種変更、法人防災訓練、他	防災無線、各所BCP検証など	5回
	職員研修委員会	法人内部研修の実施に伴う役割分担と研修終了後の振り返りを経て、次年度計画に繋げる	職員の委員会参加が低調改善など	5回
	介護職員初任者研修指定創設準備プロジェクト委員会	事業創設検証、介護職員確保、職員のキャリア形成など	事業創設を決定	5回
	ピボット若林再編等検討プロジェクト委員会	土地受贈(可能性)に伴う事業の再編検証、改正消防法に伴う既存レスパイト事業所設備整備など		0回
事業運営部門会議	レスパイト事業検討会議	事業の諸課題検討、連協への対応(法人意見の集約・整理)など	新規受入対応、医療レスパイトなど	6回
	ヘルパー事業検討会議	特定事業所加算取得検討、人材確保、ヘルパーの稼働率を高める勤務管理など	人材確保(継続)、GH派遣事業所での加算取得	12回
	相談支援事業検討会議	国、市・区の情勢共有、委託・計画相談における業務課題整理、再編検証など	報酬改定対応、業務量の改善など	5回
	日中活動支援事業検討会議	日中活動における医療的ケア検証、利用者の重度化・高齢化対応、各種加算検証	適切な人材配置、コペル事業構成の見直し等	4回
	居住支援等事業検討会議	GHが抱える運営面等に関する諸課題及び今後の居住支援の展開整理、検討など	今後のGH開設に向けた進め方など	2回
	個別支援計画在り方検討委員会	事業所間における個別支援計画作成プロセスの差異など、顕在化した課題を検証し、計画書作成時の様式、媒体を統一		2回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	食事提供サービスの向上を図るため、各所の取組みなど近況報告と情報共有等	食材費市場高騰、消費税率の引上げ対応等	2回
	PT・OT連絡会	情報共有、利用者のケース検討、障害福祉サービスの確認及び研修報告を行い、個々のスキル向上に繋がった	専門職の減少、スキル向上のための方法模索など	2回
	看護師連絡会	健康診断内容の確認、感染症と予防接種、看護師交換研修の実施、その他情報共有など	感染対策、予防接種等の見直しなど	4回
	サービス管理責任者連絡会	生活介護事業所間の課題や取組みを共有、問題把握など	各所の取組みを更に深めて知る	5回
	日中活動チーフ連絡会	サービス等利用計画、個別支援計画を通して、チーフ間での現状共有、意見交換	継続実施	2回
	南北グループホーム連絡会	入居者に関するGH・通所事業所間の情報共有など	連絡会の持ち方等	15回

	総務ミーティング	法人経営・事業運営の資金獲得方法等の検討、経理・労務事務の効率化、合理化を図るための共有と検証など	新たな知識、視点を得るための研修など	34 回
--	----------	---	--------------------	------

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
H30.5.19 (土)	事業年度（平成 29 年度）に係る業務執行状況及び財産状況	三浦監事 内出監事	寄付募集の方法、仕組み等の再構築、前払い式 IC カードの運用方法等の統一化、その他経営基盤の安定化に向けた取組みなど
H30.11.28 (水)	平成 30 年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	内出監事	賞与引当金の計上、市監査で口頭指摘のあった事項の改善方法など

(2) 外部機関等による監査など

項 目		監査・調査内容	監査員	(文書) 指摘事項等
行政 監査 等	法人一般監査 H30.9.27 (木)	社会福祉法第 56 条及び同法第 70 条等に規定する監査	市職員等 3 名	・特になし
	集団指導 H31.3.18 (月) H31.3.19 (火)	各種法令関係、指定申請及び指導監査、障害者虐待防止など	—	
	※その他事業所実地監査については実施なし			

7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	平成 30 年度 利用総数	平成 29 年度 利用総数	平成 28 年度 利用総数	前年度比
生活介護	27,753 (名)	27,330 (名)	25,529 (名)	1.5%
特例生活介護・児童発達支援	3,253 (名)	3,117 (名)	2,885 (名)	4.4%
自立訓練(生活訓練)	41 (名)	54 (名)	99 (名)	△ 24.1%
地域活動センター (注 1)	—	—	1,223 (名)	—%
居宅介護	18,057.5 (時間)	16,676.0 (時間)	16,312.8 (時間)	8.3%
重度訪問介護	1,470.0 (時間)	1,380.5 (時間)	1,267.5 (時間)	6.5%
行動援護	157.0 (時間)	256.0 (時間)	250.5 (時間)	△ 38.7%
同行援護	626.5 (時間)	544.5 (時間)	501.0 (時間)	15.1%
移動支援	13,628.5 (時間)	13,964.0 (時間)	14,866.0 (時間)	△ 2.4%
障害者家族支援等推進事業	27,774 (時間)	26,918 (時間)	26,506 (時間)	3.2%
指定特定相談支援 (計画)	430 (件)	385 (件)	444 (件)	11.7%
〃 (モニタリング)	867 (件)	739 (件)	740 (件)	17.3%
委託相談支援事業	3,516 (件)	2,870 (件)	2,555 (件)	22.5%

障害児等療育支援事業（訪問）	182（件）	168（件）	192（件）	8.3%
〃（外来）	21（件）	28（件）	26（件）	△ 25.0%
福祉有償運送事業（注2）	62（件）	117（件）	404（件）	△ 47.0%
共同生活援助	8,019（名）	7,659（名）	6,878（名）	4.7%

（注1）地域活動センターとして運営していた「八木山つどいの家」は、平成28年10月1日より「生活介護」に移行

（注2）実施事業所3拠点のうち、2拠点については平成29年9月30日をもってサービス提供を終了した

8 地域における公益的な取組の状況

社会福祉法第24条第2項の規定に基づき、当法人が培ってきた専門性やノウハウ等を活かし、地域住民や関係団体、機関等との連携のもと、地域における福祉ニーズの把握に努め、社会課題の解決に向けた公益的な取組みを実践しました。詳細は、「Ⅳ 参考資料」に掲載しています。

9 職員の状況

（1）職員数の現況と推移（平成31年3月31日現在）

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
230名	3名減	44.3歳	7年2ヶ月
（内 訳） 常勤116名、準常勤13名 非常勤73名、嘱託16名 登録ヘルパー12名	（内 訳） 常勤3名減、準常勤4名 非常勤等4名減	（内 訳） 常勤 37.6歳 非常勤等 51.1歳	（内 訳） 常勤 8年2ヶ月 非常勤等 6年0ヶ月

（2）入退職者の状況

【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	現役学生等	合 計
常 勤 職 員	1名(5名)	4名(8名)	0名(0名)	5名(13名)
準常勤職員	0名(0名)	0名(1名)	0名(0名)	0名(1名)
非常勤職員	0名(0名)	7名(7名)	2名(0名)	9名(7名)
登録ヘルパー	0名(0名)	2名(1名)	0名(0名)	2名(1名)
嘱 託 職 員	0名(0名)	1名(1名)	0名(0名)	1名(1名)
合 計	1名(5名)	14名(18名)	2名(0名)	17名(23名)

【退職者状況】

勤続年数 雇用形態	1年未満	～3年未満	～5年未満	～10年未満	10年以上	合計	離職率
常 勤	1名 (1名)	1名 (1名)	3名 (2名)	3名 (2名)	4名 (1名)	12名 (7名)	10.3% (5.9%)
非常勤等	4名 (0名)	2名 (0名)	6名 (3名)	5名 (3名)	2名 (0名)	19名 (6名)	16.7% (5.3%)
合 計	5名 (1名)	3名 (1名)	9名 (5名)	8名 (5名)	6名 (1名)	31名 (13名)	13.5% (5.6%)

※（ ）内は前年度退職者数を表記

(3) 新職員確保に向けた取り組み

- ・就職説明会（法人独自）の開催や(大学・専門学校等)学内説明会の実施
- ・ハローワーク、県福祉人材センター又は民間団体主催就職説明会への参加
- ・インターンシップ生の受入(実績1名)と大学キャリアセンター等との連携、照会など
- ・「若者雇用促進法」に基づく『ユースエール企業』としての認定
- ・その他、求人広告やインターネット媒体等の活用、施設見学会の実施（随時）

(4) 職員研修システムの遂行

<職 制>

月	日	曜	項 目	内 容	参加者数
4	19	木	全体研修Ⅰ	「社会福祉法人つどいの家 今後の将来展望」 ・今後の理事長の展望、「つどいの家」の方向性について確認する。 ・「つどいの家」の役割とはなにか。 講師： 会場：つどいの家・コペル	62 名 /131 名
5 11	9 6	水 火	全体研修Ⅱ (年2回実施)	「感染対策について」 ・感染症対策について、学ぶ ・医学知識を深める 講師：つどいの家・コペル 看護師 会場：つどいの家・コペル／若林市民センター	72 名 32 名 /131 名
7	27	金	全体研修Ⅲ	「日本知的障害者福祉協会の目的と今後の役割について」 ・障がい児・者の福祉の増進を図ることを目的にしている協会の趣旨を知る 講師：日本知的障害者福祉協会 副会長 (社会福祉法人愛泉会 理事長 つどいの家評議員) 会場：つどいの家・コペル	61 名 /131 名
5	29	火	全体研修Ⅳ (座談会)	「職員座談会」 ・「福祉の仕事の苦労話」 ・職員会総会当日の前に座談会を企画 会場：幸町市民センター	58 名 /131 名
6 11	7 20	木 木	準常勤職員 1級研修 (年2回実施)	「法人つどいの家のあんな活動・こんな活動…」 ・報告者：通所管理者より（鼎談形式） ・日中活動における活動の展開や地域との関わり、行事の取り組み ・日中活動における成功談・失敗談 講師： 会場：仙台つどいの家	27 名 3 名 /32 名
9	4	火	2級研修	「事業所における虐待防止のあり方について」 ・虐待防止の取り組みを進める職員として期待される資質や対応、虐待をおこさないための風通しのよい職場づくり等について考える。 講師： 会場：つどいの家・コペル	18 名 /25 名
8 12	27 6	月 木	3・4級研修 (年2回実施)	「メンタルヘルスについて」 ・こころの健康づくりについて学ぶ ・若年労働者向けのメンタルヘルス教育（ラインケア・セルフケア） 講師： 会場：仙台つどいの家／八木山市民センター	34 名 10 名 /48 名
7	5	木	5・6級研修 &総務職員	「異業種を知る～金融業～」 ・経済や金融をテーマに異業種について学ぶ ・幅広い知識、見識を培う。社会情勢を知る機会を得る。 講師： 会場：つどいの家・コペル	17 名 /21 名
6	30	土	非常勤等職員研修	「全体会」 ：「社会福祉法人つどいの家 今後の将来展望」 「上映会」 ：「すて～じ」映像上映①・② 「座談会」 ：「仕事の悩みについて」 ・福祉職に従事する自覚と、より高い目標を持って、仕事や組織活動に取り組む姿勢を養う。 ・福祉サービスの基礎知識・基本的動向を理解する。 ・職場構成員としての連帯感を深める。非常勤間で交流できる場を設ける。 講師： 会場：つどいの家・コペル	68 名 /93 名

<権利擁護・虐待防止委員会主催 内部研修等>

- 内 部 研 修：「虐待防止とその対応に関するガイドライン」に基づき、権利擁護及び虐待防止に関する職員の意識向上を図ることを目的として、委員会主催の内部研修を事業所単位で実施。セルフチェックシートを用いて自己の支援や感情を振り返り、福祉の仕事の魅力を共有する機会を持った。

(5) 相談支援、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 1名
- ・相談支援従事者現任研修 4名
- ・サービス管理責任者研修 3名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)の継続実施

- ・介護職員初任者研修受講 2名
- ・介護福祉士実務者研修受講 1名
- ・介護福祉士受験 1名

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・仕事に関する職員満足度調査の実施(11月/210名より回答)

Ⅲ 事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

1 仙台つどいの家 事業報告

【 はじめに 】

昨年度の目標として掲げた『支援者間の連携を深めること』については、『法人内生活介護事業所における交換研修』という形で取り組むことができました。今年度は5事業所の30人が他事業所において1日の交換研修を行ないました。さまざまに気付きもあったようで、当初の目的は達せられたように思います。次年度は一人当たりの研修日数を増やし、より深くお互いの事業所を知ることができる機会を設けたいと思います。

今年度も各種行事やイベントのほか、外出の機会を多く設け、地域社会において利用者さんが存在感を光らせるような取り組みを心掛けてきました。そうした活動を通して、地域の方々のしょうがいに対する理解が少なからず前進しているという実感は、利用者さんにとっても職員にとっても大きな力になっているように感じます。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- とんがらし通信や活動・行事、黄色いレシートキャンペーンへの参加等により、地域社会・近隣住民のしょうがいのある方への理解が少しずつ進んできているように感じる。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- さまざまな行事を通して、利用者と地域の方がまじわることができる場面を自然に作ることができている。今後はそれらによって見えてきた地域ニーズを、公益的な取り組みとして実施していくことが求められる。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 柞江小学校の『かけこみ110番の家』の受託や、イオン幸町店の新社員研修の一環として、イベント企画を継続するなど、地域にある事業所の役割を担うことができた。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 入院により思いがけない長期欠席があり、財務上大きな減収を招いた。一方で、インフルエンザなど感染症の流行は完全に防ぐことができ、冬場の欠席は例年よりも少なかった。
- 物販などの収益活動を継続して実施できた。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 外部研修や先進事業所での職員実習を実施した。
- 職員毎個別の研修計画を作成したものの、計画通りに実施できてはいない。

【 その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 近隣学校との交流強化	・ 各行事への参加案内 ・ 学校行事への参加	・ 各種行事への子どもたちの参加は例年以上に見られたものの、体験ボランティアについては実施することができなかった

(2) 運営資金づくり	・職員・家族の意識醸成 ・新規後援会員の拡充、募金箱の管理徹底 ・保護者会と連携した物販活動	・『仙台つどいの家×福島応援企画』と称した物販活動を継続的に実施できた ・募金箱の拡充・管理において、活動と連携しながら利用者・家族・職員が主体的に取り組むことができた
-------------	--	---

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月 1 回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月 1・2 回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月 1 回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集、ご近所 P ほか

< 内外部研修 >

(内部研修) ・利用者をより深く知る（菅井教授：宮城教育大学） ・実習、各種研修報告 ・法人内日中活動交換研修 ほか	(外部研修) ・リーの会交換研修 ・福祉協会交換研修 ・訪問の家朋・集見学および実習 ・社会福祉法人武蔵野見学および実習 ・サポート研セミナー ・日本福祉協会日中活動支援部会全国大会 ほか
--	---

< 行事等 >

名称	頻度	参加者数	目的など
イエローレシートキャンペーン	月 1 回	5－10 名	地域交流・CSR 活用ほか
コンサート	年 3 回	70－150 名	芸術鑑賞・地域交流・地域貢献ほか
親子クッキング	年 2 回	10 名前後	地域交流・地域貢献・
小学生クッキング	年 1 回	5 名	地域交流・地域貢献
夏まつり	8／4	約 250 名	地域交流・地域貢献ほか
バザー	10／13	約 200 名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
すてーじ	12／7	約 150 名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
成人を祝う会	1／18	約 110 名	成人お祝い

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	他施設等利用者及び 保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	8	0	0	6	17	0	0	3	15	61	6	116
5月	24	0	5	0	18	0	0	2	14	50	39	152
6月	20	0	7	14	25	0	0	4	13	53	36	172
7月	36	0	0	17	34	0	4	7	18	57	19	192
8月	145	0	0	20	59	0	4	8	16	43	15	310
9月	41	0	0	6	21	0	4	5	15	53	15	160
10月	154	0	0	8	34	0	0	1	17	60	17	291
11月	24	0	5	17	30	0	0	6	12	50	18	162
12月	116	0	2	4	27	0	2	1	17	49	25	243
1月	47	0	0	9	19	0	4	0	13	45	24	161
2月	26	0	0	13	7	0	0	1	16	47	24	134
3月	24	0	0	10	21	0	7	2	20	47	30	161
合計	665	0	19	124	312	0	25	40	186	615	268	2254

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

2 つどいの家・コペル 事業報告

【はじめに】

当事業所は開設から17年が経過したが、平成30年度は新たに「セnderドグループ」を加え、6つのグループで活動を始めた。グループの再編成に当たっては個々の利用者の状態を考慮し、より丁寧な個別支援を可能とするグループ規模を目指したが、グループの経過と現状を見ると概ね良い編成を行なうことができたと感じる。年度途中に他事業所への異動者1名、逝去による退所者1名、介護保険サービス利用に伴う退所者1名あり。逝去された方については、同居されていたご家族から「最期まで自らコペルに行く準備をしていました」との話をいただき、個々の利用者の生活にとって当事業所が存在する意味を改めて考える機会をいただいたと感じる。

また、事業所の課題（「自閉症支援」「高齢化への対応」「利用者のアート作品を通じた障がい者理解の促進」）に対してプロジェクトチームを作り、課題の共有や解決に向けた取り組みを始めることができた。経年劣化に伴う空調及び給湯設備の大規模改修工事の実施に向けて申請した補助金は不採択であったが、平成30年12月から寄附金募集を始め、延べ255名の方から440万円の協力をいただくことができた。次年度については、引き続き関係機関の協力を得ながら改修工事を実施し、日中活動に不可欠な環境整備を着実に進めていきたい。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 強度行動障害支援者養成研修の受講を進め、対象となる7名の利用者に対して支援計画シートを作成した。（実践研修修了2名・基礎研修修了1名）
- 保護者懇談会にて、参加者同士の意見交換の場を持ち、家族支援を含む福祉サービスの利用状況やきょうだい関係等について話し合う場を設けた。
- 利用者との関わりの中で感じる不安や葛藤を早期に共有する場を設ける必要がある。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- アート展の開催を企画実施するプロジェクトチーム「観て！魅て！プロジェクト」を結成。平成30年10月9日（火）～12日（金）に七十七銀行沖野支店を会場にしてアート展を開催。
- 平成30年7月26日（木）にクッキーづくり教室を開催。小学生2名が参加した。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- コペル通信84号～89号を発行。町内会や関係機関等に対象に各号共に1,235部を発行した。また、ホームページでの情報発信も継続的に取り組み、1年間で40回のブログ記事を掲載。事業所の今を広める取り組みを実施。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 平成30年4月からグループホーム利用者に対する送迎サービスの提供を段階的に実施。約190万円の増収。
- 仙台市重度重複障害者等受入通所施設等運営補助金（重度加算）の認定者1名増。
- 保護者懇談会にて障害福祉サービス給付費について説明する機会を持った。また、体調不良による欠席を最小限に抑える為、衛生委員会からの注意喚起、看護師を中心に管内清掃を徹底

し、インフルエンザ等の感染症の流行を防いだ。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 自閉症や行動特性のある利用者に対する支援力を高める為、プロジェクトチーム「act-go プロジェクト」を結成。行動の背景にある本人の不安や葛藤を考え、その手立てをまとめた支援計画シートを作成した。また、内部研修において発達障害の当事者を講師として招き、ご自身の生活歴や障害特性について話していただく機会を持った。
- 利用者の加齢に伴う変化や予防的支援の実施を目的として「ずっと元気プロジェクト」を結成。多職種による検討を経て、予防的運動プログラムの実施や保護者懇談会内での介護教室など各種企画を実施。

○ その他の活動

- 「つどいの家・後援会」の事務局として会の運営管理を担った。(役員改選に伴う臨時総会の開催・明石洋子氏講演会の開催など)

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月 1 回	事業所運営の方向性、日程確認、情報共有、意見交換など
ケース会議 (全体・各グループ)	月 1～2 回	個別支援計画の具体案検討・見直し・検討、利用者や家族の状況共有など
チーフ会議	月 1 回+臨時	事業所運営の意思決定、事業報告、課題検討など
グループ会議	月 1 回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月 1 回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
給食会議	年 4 回	食事提供にかかわる課題検討・意見交換など
喀痰行為安全委員会	月 1 回	支援員実地研修進捗確認、研修後の評価確認、課題検討など
保護者懇談会(全体・グループ)	月 1 回	活動報告、日程確認、保護者会報告・意見交換など

その他

- ・非常勤職員等 9 時以降に出勤する職員の情報共有を促進する為、9 時 30 分からの打ち合わせを定例化した。利用者の通所時間に重なっているという課題はあるものの、日々変化する個々の利用者の状況などを共有した上で職務に入ることができるようになった。

< 内外部研修 >

内部研修 ・ 7 月 「自閉症も特性と保護者支援」 ・ 9 月 「当事者と相談支援の実践から学ぶ」	・ 重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会(リーの会)先進地視察研修会(2) ・ 重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会(リーの会)合同研修会(3) ・ 仙台市危機管理室 洪水避難確保計画説明会(2) ・ 高次脳機能障害支援者ステップアップ研修(1) ・ 若林区実務者ネットワーク会議(3) ・ 宮城県喀痰吸引指導者養成研修(1) ・ アーチル発達障害基礎講座(2) ・ 安全運転管理者講習会(1) ・ 会計担当職員研修(1) ・ 自閉症研修 2018(2) ・ 宮城県立こども病院療育支援研修会(1)
外部研修 () 内は参加者数 ・ 強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)(3) ・ 摂食嚥下サポートセミナー(4) ・ 障害福祉サービス等報酬改定セミナー(1) ・ 仙台市社協主催新任職員研修(1) ・ 喀痰吸引等研修(1) ・ 地域包括ケアにおける看護職について(3) ・ 日本知的障害者福祉協会 全国障害者関係施設長等会議(1)	

- ・「働き方改革」研修会（2）
- ・ストレスチェック制度と職場環境改善（1）
- ・全国地域リハビリテーション合同研修大会（1）
- ・アーチル主催成人施設中堅職員研修（1）
- ・宮城県知的障害者福祉協会日中活動支援交換研修（4）
- ・重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会（リーの会）交換研修（4）

- ・社会福祉施設経営実務者研修（1）
- ・宮城県サービス管理責任者研修（1）
- ・アンガーマネジメント研修（1）
- ・宮城県知的障害者福祉協会職員研修会（1）
- ・宮城県知的障害者福祉協会施設長等研修会（1）
- ・資源回収集団説明会（1）
- ・全国障害者生活支援研修セミナー（3）
- ・第1回重症心身障害児者等医療型短期入所研修会（3）

外部研修への参加者数 延べ 58 名

< 行事等 >

名 称	頻度	参加者数	目的など
コペルでバザール	年 1 回	約 200 名	収益活動・バザールを通じてつどいの家を知ってもらうこと。
観て！観て！アート展（七十七銀行沖野支店にて開催）	年 1 回	—	障がいのある方が描いた作品を多くの方々に観ていただき、一人ひとりの個性豊かな作品を通じて地域の方に障がい者への理解と交流を図る。
仙台市立沖野東小学校交流会	年 2 回	約 80 名	障がい理解の促進・地域交流
クッキーづくり教室	年 1 回	2 名	障がい理解の促進・地域交流
成人を祝う会	年 1 回	約 70 名	新成人のお祝い
市民センターまつり等への参加	年 4 回	多数	障がい理解の促進・地域交流

< 見学・訪問者一覧 >

(H30. 4. 1～H31. 3. 31)

	一般来訪者	他事業所等利用 者及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4 月	5	0	2	0	1	0	2	0	3	27	86	126
5 月	15	0	2	13	5	0	3	4	13	28	57	140
6 月	24	3	2	0	0	2	0	8	14	25	19	97
7 月	82	0	5	5	2	3	9	0	19	1	55	181
8 月	8	3	2	0	5	2	3	7	12	18	14	74
9 月	223	2	4	0	2	1	0	6	18	29	46	331
10 月	12	0	15	17	4	3	1	8	13	45	25	143
11 月	34	23	2	2	2	4	5	0	10	37	30	149
12 月	4	0	6	0	40	0	2	4	10	30	35	131
1 月	6	1	3	1	7	0	1	0	11	26	4	60
2 月	20	2	8	0	3	0	1	0	9	18	36	97
3 月	32	0	14	0	5	0	14	0	11	30	80	186
合計	465	34	65	38	76	15	41	37	143	314	487	1,715

3 つどいの家・アプリ 事業報告

【はじめに】

平成30年度は、生活支援員による喀痰吸引研修（第3号研修）に取り組みました。担当職員による医療的ケアについての知識向上、指導看護師研修も含めて実施しています。喀痰吸引に取り組むということは、利用者への緊急回避ばかりではなく、福祉職が医療職の知識を身につける機会にもなります。福祉職、医療職が本人主体の支援に寄り添いながら、その人の生活を豊かにできるように、家族と今後の福祉サービスの動向も含めながら進めていきたいと思っています。

また、発達障がいや自閉症の障がい特性を理解しながら、日中活動に取り組んできました。強度行動障害者支援者養成研修に参加し、コンサルと共同しながら支援を行いました。利用者がパニック行動になることは減少し、職員の疲労感も少なくなったように実感しています。

利用者も大きく体調を崩すことなく、元気に通所することができました。当初予定していた通所率を大幅に上回ることができたのも、家族がきちんと健康維持に取り組んでくれた結果ではないかと思えます。ただ、2月上旬にインフルエンザ集団感染のため、休館の措置をとりました。感染症に対する衛生管理には十分注意していましたが、利用者・職員の健康管理についても意識向上できる取り組みを行いたいと思います。

【経営ビジョンに基づいた今年度の取り組みと評価】

○ 権利擁護推進のに向けた取り組み

経営ビジョン1

- 自閉症に関する研修会／内部研修／保護者研修会の開催
- 市議会傍聴・宮城教育大学にてゲストスピーカーの開催

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- つどいの家・アプリ バザー「バザ〜っす」の開催
- 山田町内会夏祭りへの参加／山田市民センターふれあいまつりに販売会
- 山田鉤取防災訓練へ参加

○ 地域社会等からの信頼構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 地域お助け隊の実施
- 厨房（グリストラップ）清掃 マニフェスト発行

○ 経営基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 2018年度 出席率等結果について

内容	2018年度目標	2018年度 結果	目標数値の増減
アプリ利用者出席率	93%	92.3%	0.7%減
ミント利用者出席率	84%	92.5%	8.5%増
障がい支援区分（5・6） の見直し	31名（区分5・6） ／39名	34名（区分5・6） ／39名	3名変更
事務経費の削減	電気基本料金 58k w	電気基本料金 58k w	現状維持

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 先進地域への見学・実習及び自閉症研修の継続（コンサル・強度行動障がい支援者養成研修への参加）
- 医療的ケア喀痰吸引研修（第3号研修）実施

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分 類	重点課題	具体的な取り組み	評 価
労働環境	・ ケースワークの効率化 ・ 休憩時間の保障や時間外労働の軽減など業務の見直しに取り組む。	・ 13 時 30 分の降所にあわせて会議をグループごとに開催 ・ 休憩時間の工夫 ・ 年休取得率アップ	・ 勤務時間内に業務を遂行できるように工夫。 ・ 休憩時間の課題はあるが、年休消化率は高まった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月 2 回	事業所内の検討課題について協議
月案会議	毎月	サビ管とチーフが中心になり、活動内容の確認
ケース会議	毎月	利用者のケースワーク、研修会の開催、自宅訪問等
全体懇談会	隔月	事業所の課題、保護者会との取り組みなど

< 内外部研修 >

内部研修 ・ 権利擁護・虐待防止に関する研修会 ・ 防災備蓄品確認 ・ 消防部分訓練 ・ 地域防犯訓練 外部研修 ・ 摂食・嚥下セミナー ・ てんかん講座 ・ 甲種防火管理講習 ・ 報酬改定セミナー ・ 全国知的障害関係施設長会議 ・ 宮城県障害者福祉施設職員研修 ・ ひかり苑公開講座 ・ 決算書セミナー ・ 働き方改革セミナー	・ 経営セミナー ・ 地域支援セミナー ・ 全国知的障害福祉関係職員研究大会 ・ 医療的ケア看護師研修 ・ 医療的ケア第 3 号研修 ・ 地域包括ケア研修 ・ 療育研修会 ・ 人権・倫理委員会 ・ 強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践） ・ 安全運転管理者講習 ・ 全国重症心身障がい日中活動支援協議会 ・ 会計実践研修 ・ 国際福祉機器展 ・ 4 法人ジョイントセミナー ・ サポート研 ・ 社会福祉法人 あゆみの家 など
--	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
山田町内会夏祭り	8 月 4 日 (土)	多数	地域とコミュニケーションを図る
ポッケの森まつり	9 月 1 日 (土)	多数	他法人間交流
バザ〜っす	9 月 15 日 (土)	多数	バザーを通じて、地域につどいの家のことを知ってもらう。
アピール大行進	9 月 24 日 (月・祝)	5 名	当事者から訴える場面をつくる。
山田鉤取地域防災訓練	10 月 27 日 (土)	3 名	地域の防災事情を知る
山田市民センターまつり	11 月 3 日 (土)	多数	地域とのコミュニケーションを図る
宮城教育大学ゲストスピーカー	11 月 13 日 (火)	5 名	今年で 11 年目。学生にむけて、障がい理解を進める活動。

< 渉外・他 >

4/25	町内会年度の挨拶回り	10/23	リーの会 保護者の会
4/27	後援会総会	10/25	後援会セミナー
5/15	宮城大学 訪問	10/30	宮城教育大学 打ち合わせ
5/17	リーの会 南部ブロック打ち合わせ	10/31	第1回 人権倫理委員会
7/12	山田鉤取地域防災実行委員会	11/7	なのはな上映会
8/9	南部アーチル訪問	1/8	宮城教育大学 訪問
9/19	FMたいはく訪問	1/25	市役所訪問
10/3	(株) まるたま訪問	2/22	嘱託医相談
10/11	社会福祉法人 わらしべ舎 訪問	3/15	第2回 人権倫理委員会
10/15	人来田中学校 訪問	3/18	太白区自立支援協議会

< 見学・訪問者一覧 >

(H30. 4. 1～H31. 3. 31)

見学者・来訪者一覧)								(H30. 4. 1～H31. 3. 31)				
	一般来訪者	他事業所等利用者及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4月	0	0	3	0	0	0	0	2	4	33	11	53
5月	0	0	4	3	2	0	0	4	9	30	4	56
6月	1	0	4	2	1	0	0	13	4	18	5	48
7月	0	3	12	33	0	0	0	1	7	21	20	97
8月	0	6	0	0	0	0	0	6	4	28	10	54
9月	2	0	2	0	2	0	0	0	6	35	8	55
10月	1	0	6	0	2	0	0	3	10	25	8	55
11月	23	0	3	4	1	0	0	4	0	29	8	72
12月	3	53	0	0	0	0	10	1	16	29	23	135
1月	2	13	0	0	3	0	0	0	3	26	7	54
2月	0	32	0	0	0	0	0	1	5	28	5	71
3月	8	27	2	7	15	0	2	3	14	29	13	120
合計	40	134	36	49	26	0	12	38	82	331	122	870

4 八木山つどいの家 事業報告

○はじめに

利用者 16 名がホールと地域交流室に分かれて活動展開するが、ホールでの活動人数が多くなるため、小グループ外出、喫茶店での接客体験、市民センター月曜休館に合わせ喫茶営業を休み活動の場にする事で調整してきた。隣の市民センター体育館を借用し広い空間での活動も行なう。さらに、小上がりスペースの縮小、室内倉庫を個別活動室へ、静養室ベッドを 2 つ折りに変更するなど、細かな環境整備にも努めた。これまで賑やかな空間を苦手とする自閉症や精神の方は、昨年度に比べ落ち着きが見られるようになった。一方、ここ数年、利用者の健康面や食事面の留意事項が増えてきた。看護師は兼務で週 1 勤務だが、今後検討が必要に感じる。

年度末の 2 名退所に伴い、新規受け入れ準備を進めなければならないが、動線確保、支援体制、送迎車両の見直しもあり課題が残る。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営 V 1

- ・地域で活動する中で諸課題は垣間見られた（公共交通機関等）が、市長への手紙等を通し担当部署への提言には至らず。
- ・利用者と家族の関係性の中で、権利擁護の課題が浮上し、区やアーチルに情報提供、協力を求める。日中夜間休日を問わずその支援に奔走する。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営 V 2

- ・地域交流室はコンサート開催と並行しながら、法人内通所系の作品展示を中心にアート展を行なう。
- ・中学校行事において空き教室でワークショップ（さをり織体験）を企画し、利用者と中学生の交流の場に。
- ・八木山フェスタでは、ハーブのまちづくり実行委員と協同でワークショップを開催。東北工業大学学生がボランティアとして協力。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営 V 3

- ・地域交流室の学習会「手つ学カフェ」では、東北工業大学の教授に依頼し「要援護者の個別避難支援計画」の講話に法人の防災委員、町内会長や町内会防災担当の方も参加。また、嘱託医を講師に「がん検診」の講話には地域住民の参加あり。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営 V 4

- ・欠席ぎみの利用者の支援を進めるため、相談事業所や発達相談支援センター（アーチル）と連携しケア会議や通院同行を推進。課題解決し安定的に通所数が増え通所率回復へ。
- ・休日開所日を設けているが、出席者数は伸びず。時期や休日行事の検討が必要。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営 V 5

- ・他事業所（日中活動）との交換研修を実施。当事業所は小規模なため、支援員の多い事業所での交換研修は気づきや学びが多い。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的取り組み	実績と結果
コミュニケーション支援	可視化による意思伝達の工夫。 丁寧な意思確認や意思決定支援 を行なう。	本人希望を聞き取りながら活動 を組むが、写真カードや絵カー ドを適宜揃えるには至らず。
家族との連携	将来の生活について話し合う。 施設懇談会や行事へ家族参加を 促す。(茶話会、施設見学等)	懇談会参加者は少ないが、役員 保護者を中心に、バザー等行事 で連携を図る。
健康管理	看護師、嘱託医、主治医との連携 通院同行、グループホームとの 情報交換	嘱託医による健康講座を開催。 健康面では他法人のGH入居者 は連携に難有り。
作業品開発・アート作品商品化 プロジェクト	美術系学生や手芸作家にボラン ティアとして参画を促す	・宮城教育大学美術科学生の協 力のもと「さをり織商品化プロ ジェクト」で販売品目を増やす。
地域交流行事との連携 (地域住民、小学校・中学校との 交流)	一丁目公園祭りにて子ども向け ワークショップ開催。 八木中祭で空教室にてワークシ ョップ開催。	・中学校行事において空き教室 で利用者と中学生の交流の場は 有効。小学生との交流は工夫必 要。
活動ボランティア 喫茶ランチタイムボランティア	地下鉄沿線大学の学生や地域住 民の活動ボランティアを募集。 喫茶ランチタイムボラ募集。	活動ボランティアは働きかけ弱 く希望につながらず。ランチタ イムボラは検討中。
地域交流室のギャラリー化	喫茶室にピクチャーレールを設 置し、定期的にアート展を開催。	八木山の小さな美術館の名称で PRし注目される。年5回開催。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
チーフ会議	月 1 回	予定確認、グループ特記、行事進捗、ケース会議議題検討、内部研修テーマ 検討、他
月案調整会議	月 1 回	活動場所調整、支援体制調整、配車、食数確認、他
職員会議	月 1 回	予定確認、会議・委員会報告、行事確認、検証、内部研修、他
ケース会議	月 1 ～ 2 回	個別支援計画、ケース特記、ケース記録まとめ、事例検討、他
給食喫茶連絡会	月 1 回	喫茶・厨房・事務の連携、イベント検討、季節メニュー検討、他

< 内外部研修 >

・要援護者個別支援計画の作り方 10 名 ・がん検診 8 名 ・強度行動障害研修 1 名 ・アーチル発達障害支援者養成講座 1 名 ・地域福祉セミナー 1 名 ・自閉症事業所の公開セミナー 1 名	・発達障害支援者養成基礎講座 1 名 ・東北工大シンポジウム 1 名 ・アートと著作権研修 1 名 ・人材確保研修 1 名 ・地域福祉フォーラム 1 名 ・仙団協視察研修 1 名
---	--

< 行事等 >

名称	開催日 (頻度)	参加者数	目的など
ふれあいバザー	年 1 回	1 6 名	地域交流、保護者会との連携、収益
ミニバザーこの市とまれ	年 7 回	1 6 名	利用者主体のバザー品の販売
生協販売会	8 回	2 0 名	利用者主体の手作り品の販売
イエローシートキャンペーン	3 回	1 0 名	イオン来店者との交流
一丁目公園祭り	年 1 回	3 名	町内会との交流、児童との交流

八木中祭	年 1 回	1 4 名	中学生との交流、学校との連携
八木山市民センター祭り	年 1 回	(職員 1 名)	アート作品の展示、展示説明
八木山フェスタ	年 1 回	5 名	地域交流、団体との連携、喫茶営業
コンサート	年 3 回	2 0 名	地域交流、演奏家の発表の場
手つ学カフェ	年 2 回	(職員 2 0 名)	地域交流、地域課題の共有

< 渉外・他 > ※地域や法人行事等は含まず。

5/9	南部アーチル来所	12/4	聖ルカ幼稚園父母会来所（寄附）
5/14	南部アーチル来所	12/7	無線機業者来所
5/24	小松島支援学校教員来所	12/17	イオン鈎取店来所
6/14	小松島支援学校実習打合せ	1/10	鶴谷特別支援学校保護者来所（見学）
6/26	太白区道路管理課カーブミラー設置	1/10	新設設備設計事務所設備点検
7/6	南部アーチル来所	1/11	宮教大附属支援学校保護者来所（見学）
7/10	小松島支援学校教員来所	2/12	仙台市建設業協会来所（寄附）
10/4	八木山社協来所		視覚支援学校実習打合せ来所
10/6	太白消防署八木山出張所来所	2/19	八木山ネットワーク会議参加
11/14	消防設備点検アルソック	3/26	鶴谷特別支援学校来所（見学）
11/21	就職希望学生来所		

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見 学 者	実習者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法人内	寄付・寄贈	小 計
4月	0	0	0	13	1	4	3	2	3	26
5月	16	0	0	8	7	4	0	4	0	39
6月	0	2	0	9	5	7	0	10	0	33
7月	12	0	0	3	5	7	2	10	0	39
8月	0	0	38	7	4	2	1	6	0	58
9月	0	0	0	4	4	5	0	5	0	18
10月	0	0	0	9	7	8	1	10	0	35
11月	2	0	0	6	5	5	1	10	1	30
12月	0	0	0	6	5	6	2	8	0	27
1月	19	0	0	9	8	8	0	15	0	59
2月	0	6	0	1	2	2	0	3	1	15
3月	2	1	2	11	3	12	20	12	0	63
合計	51	9	40	86	56	70	30	95	5	475

※見学欄に面接者含む。寄付寄贈に飲食物は含まず。利用者と一般、見学、実習以外は要件でカウントしている。

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

5 若林障害者福祉センター(生活介護事業・生活訓練事業) 事業報告

【はじめに】

平成30年度は、障害者福祉センターの役割である“地域の福祉サービスに通うことが難しい方”である全国でも症例少ない難病のある方の利用を開始した。一体的にサービスを提供している他団体と共同し、仙台市の基幹相談事業所でもある南部アーチルと医療機関とも連携を取り、より良い支援のあり方を意見交換しながら受け入れ準備を行なった。一方で、家族も含め他者との関わりを拒み、昼夜逆転の生活が続いている利用者への支援方法を各相談機関や行政、医療機関も含めて模索した1年でもあった。

【経営ビジョン実現に向けた取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 意思決定支援を大切にし、支援者個々が日常支援の中でセンターを取り巻く環境や社会情勢の把握に努めながら、権利擁護について自分自身の問題ととらえ、センター内他団体と各団体の事例を用いた研修会に参加することで権利擁護意識の醸成を図った。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- センター内に関わらず、各種イベントや外出活動で街中を行動することで、広く市民の方々と触れ合い社会参加意識の向上を図り、幅広く交流の機会を持つように努めた。小学校の福祉学習の場では、利用者が講師として参加し、自身の生活等を紹介し交流を図った。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- センターを運営する四つの団体と共同して「若林区民まつり」に参加し、生活介護・生活訓練事業を知ってもらうため利用者の作品展示コーナーを設け、事業への理解に努めるとともに法人理念の浸透を図った。

○ 財政基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- センターは、市の委託料により事業を展開している事もあり、職員（支援者）が法人内の他事業所に異動しても常にコストを意識し、経費のムダを省く行動を身に着けるよう努めた。

○ 人材育成及び研修等への取り組み

経営ビジョン5

- 法人内「人材育成プラン」に基づき、個々の職員（支援者）に必要とされる基本的知識や支援力向上のため或いは利用者との関係の中で求められる技能の習得に努め、内部研修のみならず外部の専門研修に派遣し、その習熟を図った。

【その他重点的な取り組みと成果等】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
(1)医療的ケアへの理解を深める	センター内の看護師と連携を深め、また研修へ参加し医療的ケアのスキルアップを図り支援にあたる。	日々看護師と連携しながら医療的ケアについて学び、日常生活の一つとして捉え、安心な支援を行なうことができた。
(2)本人主体の個別支援計画を推進する	一人の支援者の目線だけではなく、複数の視点で多くの背景を考慮した個別支援計画を作成する。	個別支援計画を意識しながら、チームで日々の振り返りを丁寧に行なうことで、計画を推進することができた。
(3)保護者の高齢化に向けた健康面への配慮	利用者・保護者共に通院同行を実施し、主治医・家族と健康の管理について共有する。	必要に応じ通院同行することで、本人を取り巻く必要な医療の背景を知ることが出来、支援者からも家族に健康管理の大切さを提言することができた。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支援会議	1 回/月	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など ＊福祉協会看護師参加
職員会議	1 回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月案会議	1 回/月	活動・体制調整、車輛使用予定確認など
センター運営会議	1 回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1 回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1 回/月	センター内部研修企画・実施など
看護師連絡会	1 回/月	福祉協会職員と利用者の健康についての確認や情報交換など
給食連絡会	1 回/月	福祉協会職員と給食調整、課題検討など
送迎連絡会	1 回/月	福祉協会職員と送迎調整、課題検討など
入浴連絡会	1 回/月	福祉協会職員と入浴調整、課題検討など

< 内外部研修 >

・ 仙台市障害者福祉センター医療的ケア研修 ・ アーチル特別講座 ・ 共同連東北ブロック交流会 ・ OJT 指導者研修 ・ アーチル発達障害基礎講座 ・ 全国知的障害関係施設長等会議 ・ 成人施設中堅者研修 ・ 宮城県ゆずり葉の会講習会 ・ 仙台市障害者福祉センター医療介護安全管理研修 ・ 上級救命講習	・ 個別支援計画作成および運用に関する研修会 ・ 宮城県サービス管理責任者研修 ・ 仙台市障害者福祉センター職員等研修 ・ 仙台市障害者相談支援従事者現任研修 ・ 仙台市障害者福祉センター生活介護職員等研修 ・ 全国障害者生活支援研究セミナー ・ 若林区自立支援協議会実務者ネットワーク会議 ・ 障害のある方の性教育セミナー ・ 重症心身障害児者等医療型短期入所研修会
---	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	目的など
センターまつり	7 月 22 日(日) (1 回/年)	まつりを通し障害者福祉の啓発を行い、地域福祉の拠点として障害者の総合的な福祉の促進を図る
ウエルフェア	9 月 17 日(月) (1 回/年)	広く障害者福祉についての関心と理解を深めるとともに、しょうがいのある方の社会参加への意欲を高める
若林区民ふるさと祭り	10 月 21 日(日) (1 回/年)	若林区内における総合的な交流の場に参加することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、安全で安心なコミュニティづくりを目指す
沖野小学校福祉学習	6 月 26 日(火) (1 回/年)	近隣小学校における総合学習にて、障がいのある人の講話や体験を通し、障害福祉を広める
沖野中学校職場体験	8 月 24 日(金) (1 回/年)	近隣中学校の職場体験にて、将来、社会的・職業的に自立できる力を育むための体験活動を通じて、障害福祉を広める

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

6 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」 事業報告

【はじめに】

各三事業（レスパイト、ヘルプ、相談）が日々の事業に取り組みながら、事業間で連携し、事業所運営を行いました。レスパイト連絡協議会や泉区自立支援協議会等への参加により、関係事業所間の連携を図り、また、サロン活動や包括ケア会議などを通じた地域とのつながりに努めました。特に今年度は、南光台三丁目市（ミニバザー）や子ども向けのイベントを開催し、これまで以上に南光台三丁目のエリアを重視した取り組みを行いました。

今年度は年度途中で前管理者の退職に伴い、管理者が代わるという状況になりましたが、各事業チーフ、総務を中心に全職員が一体となり、ぴぼっと南光台を支えていこうという職員ひとりひとりの心強い姿が見られました。

ヘルパー事業、相談事業それぞれにおいて事業再編に向けた準備を進め、次年度はヘルプ事業（ぺんたす）はピボット若林のヘルパー事業（ぴぼっと）と再編され、また相談事業（ゆあらいふ）は、ぴぼっと支倉（とびら）と統合することとなりました。次年度はぴぼっと南光台は職員体制が大きく変わり、新たな地域生活サポートセンターとしてスタートすることとなります。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 強度行動障害支援者養成研修（基礎）の受講と内部研修における伝達研修の実施
- 権利擁護・虐待防止委員会が主催する内部研修の実施

強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）を1名が修了しました。養成研修の内容を活かし、ヘルパー連絡会においては、「介助される方の気持ちを知ろう」をテーマに研修を行いました。

権利擁護・虐待防止委員会が主催する内部研修については、ぴぼっと南光台とぴぼっと支倉合同で実施し、セルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行い、どのような関わりがよいのか意見交換する機会を設けました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- 地域交流スペースのサロンを活用（定期的な趣味講座、貸館事業）
- 南光台包括圏域会議への参加を通して南光台地域の現状を理解し、人と人とのつながりを作るサロンスペースについては、定期的に利用する団体が増え、毎月10件前後の利用がありました。南光台包括圏域会議は、障害種別を超えたグループワークに参加することで、関係機関等とのつながりをもつことができました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 南光台通信を発行し、配布の範囲を広げていく。ぴぼっと南光台及び社会福祉法人つどいの家の事業内容を地域に発信する（年4回）
- ミニバザーの開催、町内会行事への参加、同地区内の福祉系団体との連携

南光台通信を通じてサロンを知ってもらう等、PRを行うことができました。今年度はこれまで以上に南光台三丁目のエリアを重視した取り組みとして、南光台三丁目市（ミニバザー）や子ども向けのイベントを開催しました。次年度も引き続き南光台三丁目のエリアでの取り組みをしていきたいと思います。

町内会とのつながりについては、年度途中で管理者が代わったこともあり、積極的なつながりを持つことができなかったため、次年度は積極的なつながりをもつよう取り組んでいきたいと思っています。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- 多様な手段による人材募集による登録ヘルパーと介護人の確保
- ヘルパー事業での変形労働制の導入
- 相談事業において、30～31 年度報酬改定に対応したサービス等利用計画の実施
- ヘルパー事業、相談事業それぞれでの特定事業所加算の検討

人材募集に関しては、特にヘルパーについては、毎月ぺんたす運営会議を実施し、ホームヘルプサービスにおける利用実績の確認と分析、求人活動等を検討しました。定期的に求人チラシの配布やホームヘルパー養成校での定期講座を行いました。なかなか充足には至りませんでした。定期講座、見学希望者の受け入れを通じて、登録ヘルパーの雇用がありました。

ヘルパー事業、相談事業ともに、安定的な運営の継続のため、事業再編に向けた準備を進めました。その結果、次年度はヘルプ事業（ぺんたす）はピボット若林のヘルパー事業（ぴぼっと）と再編されることとなり、相談事業（ゆあらいふ）はぴぼっと支倉（とびら）と統合することとなりました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 年 3 回の内部研修実施
- 個別の研修計画策定
- ヘルパー研修会・介護人連絡会や日常的な業務を通しての人材育成

内部研修は下記のテーマで、1 回実施しました。年度途中で管理者が代わったことも実施回数が少なかった要因かと思われますが、次年度は年間のスケジュール及びテーマを設定し、実施する必要があるかと思われます。『NHK ハートネット TV より「障害者殺傷事件から 2 年～福祉現場で働く人の本音」』

職員個々の個別研修計画については、策定はされたものの、策定に留まり、十分な活用には至りませんでした。ヘルパー研修会は 8 月、12 月（ぴぼっと/ぺんたす合同）に開催。介護人連絡会については、開催には至りませんでした。次年度は開催回数を増やすよう年間スケジュールを定め、開催方法についても検討する必要があります。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 公用車管理	車両日常点検の実施	定期的に点検を実施したが、担当者への負担が多く、事業所全体としての点検、管理方法を検討する必要あり。
(2) 防災	事業棟からの出火を想定した防災訓練を年 3 回実施する。内 1 回は法人内職員を含む登録介護人を対象として実施する。	年 3 回防災訓練を実施。登録介護人を対象に実施することができなかったため、次年度は年間スケジュールを立案し、実施する必要あり。
(3) サロン活動等	5 月から 12 月にかけて毎月 1 回の趣味講座を開催する。	サロン活動では、趣味の教室等を開催。南光台三丁目市（ミニバザー）や子ども向けのイベントを開催。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 1 回	参加：管理者・事務員・各事業チーフが参加 内容：各事業の現状共有・課題検討等
職員会議	月 1 回	参加：全職員（※登録ヘルパーは除く） 内容：会議や研修の情報共有・事業所内の課題検討等
ぺんたす会議	月 1 回	参加：ホームヘルプサービスぺんたす職員、管理者 内容：ホームヘルプサービス事業における課題検討・情報共有等
すてっぷ会議	月 1 回	参加：すてっぷ・はうす職員、管理者 内容：レスパイト事業における課題検討・情報共有等
ゆあらいふ会議	月 2 回	参加：ゆあらいふ職員、管理者 内容：相談事業における各ケースの課題検討、情報共有等
ぺんたす運営会議	月 1 回	参加：管理者・事務員・サービス提供責任者 内容：ホームヘルプサービスにおける利用実績の確認と分析、求人活動等
安全委員会	月 1 回	参加：管理者・サービス提供責任者・医療的ケアを行なう職員 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有等

< サロン等 >

すてっぷサロン 貸館事業	サロンスペースを活用し、貸館事業を実施。趣味の教室（こぎん刺し、お包みの会、三味線講座）、家族の勉強会等が行われた。
-----------------	--

※すてっぷサロンは、共生型福祉施設整備事業の理念に則り、住民相互の交流や学びの場を目的として開催。併せて貸館事業も実施。

< 外部研修 >

・精神保健基礎講座（加藤） ・行動障害研修会（佐藤） ・安全運転研修会（児玉） ・アーチル基礎研修会（加藤） ・QC 活動研修会（佐藤） ・同行援護研修会（今野） ・衛生推進者講習（高橋和） ・強度行動障害支援者研修（基礎・実践）（長谷川） ・療育支援研修会（加藤） ・クレーム対応研修会（今野） ・県社協コミュニケーション技術・対人援助研修（今野、佐藤） ・職員会主催視察研修（高橋毅）	・かかりつけ医等心の健康対応力向上研修（加藤） ・泉区障害者自立支援協議会研修会（加藤） ・仙台市難病患者等ホームヘルパー養成研修（佐伯） ・連合保護者会主催セミナー（今野、佐伯） ・宇佐川研究発達障害臨床研究会（佐伯、高橋和） ・仙団協福祉フォーラム（今野、佐藤） ・みやぎ移動支援フォーラム（児玉） ・東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム（児玉） ・仙台市レスパイト事業連絡協議会研修会（児玉、佐藤） ・仙団協福祉講座（高橋毅） ・宮城県障害者相談支援従事者研修（加藤） ・重症心身障害児等医療型短期入所研修会（加藤）
---	--

7 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」 事業報告

【 はじめに 】

相談支援事業は、委託相談と計画相談の2種の相談を6名の相談員で対応してまいりました。年々相談内容が多様化・複雑化していることに加え、青葉区というエリアの特徴もあり件数も増加の一途を辿っています。ゆあらいふと合併し相談事業所加算Ⅲを取得したことで、計画相談担当と委託相談担当を明確に分けたり、OJT 等による育成にも力を入れ、業務の負担を軽減しながら地域で蔓延している生活上の困りごとや想いの実現に対応していきたいと思います。

レスパイト事業は、新規利用者受入ストップの状況の改善し日々の利用に対応しながら、レスパイト連絡協議会において要綱改正等の具体的取り組みをすすめてきました。今後もレスパイトの在り方の根本的な所も含め連携や仙台市とともに協議していきたいと思います。

やまびこホームが抜けたことで、そこに移転しとびらの事務所環境としては大きく改善されました。一方で、3事業所の連携がなくなり支倉保育所とのつながりも薄くなり、地域全体との関わりも減っている状況です。地域への取り組みを改めて行っていきたいと思います。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 権利擁護員会主催の内部研修を法人内他事業所と企画し参加した。
-

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- はせくら通信については、予定通りの時期・回数での発行をおこなった。
- イベント開催などによる地域住民との交流は希薄になってきている。
-

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 防災訓練など隣接する支倉保育所と連携して行なってきた。
- 相談支援事業所として各種会議に参加し青葉区の中で一定の役割を担っている。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 特定事業所加算Ⅲ、三種特定事業所加算を取得した。また、請求漏れ分を適宜確認し未回収分を確保した。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- レスパイト連絡協議会主催の研修会の企画運営を行なった。一方で、介護人連絡会等の企画については、日々の業務に埋もれ思うように実施できなかった。
- 相談支援員に対しては先輩の同行や二人体制等 OJT で育成を行った。
- 研修への派遣、内部研修の実施などは今後より積極的に行えるとよい

＜その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価＞

重点課題	具体的取り組み	評 価
・相談支援の質の向上	・OJT や研修参加により全体のスキルアップを図る。	・研修案内、市の指定研修の受講は行えたが、個人に合わせた指定は行えず、回覧でとどまった
・青葉区における地域づくりへの貢献	・区や委託・指定相談支援事業所と連携を通して市への課題提起を行う。 ・青葉区自立支援協議会へ主体的な参加	・事務局として運営面にも関わり参加した。
・サービス等利用計画作成	・他指定事業所への計画作成依頼とケース移行 ・計画作成を通して見えてきた地域課題の抽出	・委託相談からの切り替えなどを今年度の委託・計画の分離に向けて適宜行った。地域事業所への移管は入所２名にとどまった。委託数、業務量、収入のバランスを見て修正。
・事業内の情報及び支援の方向性の共有	・相談員ミーティング、事例検討会議の実施 ・外部研修への参加	・定期の相談員ミーティングは実施。報告ではなくレビューしながら今後の方針、課題の共有、細情報や良い支援の共有の為に工夫が必要。
・事業内の情報共有	・利用状況、利用者・介護人の状況、環境整備等の共有など	・専任スタッフ、介護人と密に行うことが出来た。
・職員、介護人の質の向上と人材確保	・法人内レスパイト事業所と協働し、介護人を対象とした研修の実施 ・ボランティアサークルと連携し、イベントの開催 ・近隣への介護人募集チラシの設置	・法人内での適宜のやり取り情報共有は行えたが、各種研修会の方法・内容は見直しが必要。 ・ボランティアサークルとの連携は維持したが、介護人募集の具体的な動きには至らず。
・行政や他事業所間との連携	・レスパイト連絡協議会へ参加と連携。運営上の課題を整理 ・課題を連絡協議会から行政へ提起し、共に考えていく	・継続的に連絡協議会において改善に向けた検討を続け、今後も継続的に行っていく。
・環境整備	・居室や送迎車の管理、台所、トイレ、浴室の衛生管理、必要備品整備、薬品等の適切保管を行なう。	・老朽化や利用者さん使用における劣化は否めないものの、適宜確認と修正は行えた。

【 事業実施状況等 】

＜ 諸会議 ＞

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週１回	ケースレビュー、支援方針検討
とびらケース検討会議	随時	よりこまめな支援方針の検討を行う
とびら全ケースレビュー	年２回	全ケースの状況を確認、終結の検討、ケースの中断の防止
だいちミーティング	随時	情報共有と支援方針検討
チーフ会議	月１回	管理者、総務、相談、レスパイトで情報共有
職員会議	月１回	全職員で情報共有と協議事項検討

＜ 内外部研修 ＞

・法人権利擁護研修（年２回） ・相談支援者研修（全国・東北ブロック） ・レスパイト連絡協議会研修（年２回）	・法人職員研修（非常勤研修、各階級対象研修等） ・サポネットあおば（月２～３回） ・仙台市主催各ケアマネジメント研修 ほか
---	---

＜ 行事等 ＞

名称	開催日（頻度）	参加者数	目的など
レスパイト）そらイベント	年３回	約３０名	大学サークル活動との協働

＜利用状況等＞ 「Ⅳ 参考資料」に掲載

8 地域生活サポートセンター「ピボット若林」 事業報告

【はじめに】

30年度、相談事業はこまめなケースレビューや事例検討などを通じて、職員個人や事業としてのスキルアップを進めてきました。4名体制での事業運営の中で委託と計画のバランスなど課題は山積ですが、個々の相談員としてではなく事業所全体としての対応を心掛けているところです。レスパイト事業は、移転を含めた再整備プロジェクトを一時中断しています。30年度末において南小泉すきっぷの賃貸借契約の更新を行なったため、この2か年の中で今後の方向性についての結論を出し具体的に動く必要があると考えます。また事業自体の課題についてはレスパイト連絡協議会で複数年にわたり検討を重ねていますが、仙台市担当部局との折り合いがつかず大きな進展は相変わらず見られていません。ヘルパー事業においては、効率の良い人的配置と経営の安定化のため事業再編に着手しました。特定事業所加算の取得やサービス提供責任者の減員などの工夫を通して、健全運営について実績を評価しながら進めていく必要があります。

事業所全体として、職員個々のスキルおよび職員間の協力体制は非常に高いレベルにあると思います。であるからこそ、地域町内会との良好な関係の上に事業運営が継続していているものと考えます。事業の再編により職員の入れ替わりもありますが、これまで積み重ねてきたものをリセットすることなく積み上げ続けていくことが大切だと思います。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 権利擁護委員会主催の内部研修を開き、権利擁護に対する意識の醸成に努めた。
- ケースレビューやケア会議の開催を通して細やかなケースワークに努めた。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 資源回収、地域清掃、地域防災訓練などの地域行事に積極的に参加し、町内会の中での役割を果たすことができた。
- 地域包括、民児協、各町内会等との連携強化に努めた。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 事業所としてのBCP（事業継続計画）の整備を開始した。
- 地域町内会への積極的な参画により、存在感を示すことができた。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 新たに登録ヘルパーを1名増やすことができたが、常勤率を下げるところまでは至らず。
- レスパイト連絡協議会を通じて補助要綱の見直しを市に働きかけているが、要綱改正までは至っていない

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 個人毎の研修計画に基づき、年間を通して研修の機会を持つことができた。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

	内容	具体的取り組み	目標とする成果	実績と結果
1	居宅介護特定事業所加算整備	加算要件の整備	収入増と人材管理の向上。	年間通じて検討を進め、加算取得に向けた事業再編を実現した。
2	区自立支援協議会への参画	地域課題の抽出と整理 相談機能の強化及び連携	若林区内の課題改善に向けて組織的な強化と連携が高まる。	区自立支援協議会への積極的な参画により、若林区の中での相談機能の強化・連携が図られている。地域課題の抽出・整理までは至らず。
3	レスパイト連絡協議会での精査検討の継続	現制度の見直し。 事業間の連携	新規受け入れが可能。 安定した運営。	事業所間の連携は十分に図られているが、課題となっている制度自体の見直しは実現できていない。昨年度中間案を示すものの、市担当部局として制度見直しには至らず。
4	ピボット若林の再整備	二か所実施の改善	安定した運営	再整備プロジェクトは中断中。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月 1 回	予定、各事業進捗、会議・委員会報告、他
チーフ会議①	月 1 回	P 若全体確認事項、各事業進捗、法人関連報告 等
各事業会議	月 1 回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリ確認、ケース関連等
事務会議	月 1 回	環境や備品等・経費・労務・情報管理関係の確認
ケースレビュー、事例検討	レビュー月 2 回 事例検討月 1 回	相談員が個別に対応しているケースについて定期的にチーム内で共有し確認及び検討を行っている。
サビ責ミーティング	月 1 回	事業全般の対応調整と整理検討を行っている。
区自立協運営会議	月 1 回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年 2 回	区の障害福祉関係者が集い、顔の見える関係をつくりながら各種情報共有と課題解決に向けて交流を図る。
区障害者相談員連絡会	月 1 回	相談員が情報共有、事例検討、研修、課題抽出等を行い、地域課題等を解決していけるための取り組みの場。
市自立協	不定期／年数回	市障害者自立支援協議会内の部会傍聴により情報収集。
レスパイト事業連絡協議会	随時	レスパイト事業自体の課題と人材育成に取り組む。全体研修会等の企画も。

< 内外部研修 >

・法人企画研修 ・精神保健福祉基礎講座 ・精神保健福祉初任者研修	・相談自己評価に関する研修 ・ヘルプ視察研修 ・相談リーダー研
--	---

・OJT指導者研修 ・市ケアマネリーダー研修 ・市ケアマネ基礎研修 ・レスパイト連協職員研修 ・全国相談支援ネットワーク研修大会	・リスクマネジメント研修 ・クレーム研修 ・相談支援専門員現任研修 ・苦情に関する研修会 ほか
--	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
子供会資源回収参加	年5回	2名	地域貢献
宮城の萩大通り清掃	年2回	2名	地域貢献
区班総会と側溝清掃	年1回	2名	町内会会員の役割として
P若防災訓練	年4回	10名程度	事業所内の防災に関する備えとして
若林区民祭り	年1回	数名	区自立協ブース参加あり。

< 見学・訪問者一覧 >

	見学者	実習者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法人内	寄付・寄贈	小計
4月	0	0	2	11	5	5	8	0	1	32
5月	0	0	3	8	4	14	23	0	0	52
6月	0	0	0	3	4	8	10	3	0	28
7月	0	0	1	3	0	2	1	1	0	8
8月	0	0	0	7	3	6	8	2	0	26
9月	0	0	0	40	5	7	0	2	0	54
10月	0	0	1	8	9	3	9	10	0	40
11月	0	0	0	1	3	5	0	5	0	14
12月	0	0	0	1	5	7	2	1	0	16
1月	1	0	0	2	1	11	1	2	0	18
2月	1	0	0	3	3	7	5	6	0	25
3月	1	0	0	1	1	5	30	2	0	40
合計	3	0	7	88	43	80	97	34	1	353

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

9 グループホーム（共同生活援助事業） 事業報告

【はじめに】

グループホーム（若林区3ヶ所、泉区2ヶ所）では、入居者24名（男性15名、女性9名）が暮らしています。一昨年度、新しい男性グループホーム「にじいろ」を開設しましたが、現在も夜勤者等の人材の確保が困難な状況です。そのため、法人内事業所全体で職員体制のバックアップをしています。

グループホームにおける支援の質の向上のためには、人材の育成が大切となります。そのため、各ホームの職員会議、事例検討会や職員全体研修会（年2回）を実施し、職員間の情報共有と支援に対する意識向上を図りました。国の施策が十分とは言えない現状においては、財政面はとても厳しい状況です。そのため、グループホームにおける居宅介護の積極的活用等による運営に努めました。

【実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 各ホーム職員会議や職員全体研修会において、自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける
- 毎月、入居者懇談会を開催し、入居者の声をホーム運営にいかす

職員全体研修会において、セルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。さらに、職員全体研修後の各ホーム職員会議ではあらためて支援の振り返りを行い、どのような関わりがよいのか意見交換する機会を設けました。

入居者懇談会は、入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。今年度も「グループホームでいきいきと」（日本GH学会）を活用しながら、グループホームでの暮らしについて質問する機会を作り、懇談会で出された意見を各ホームに伝え、入居者の声が反映されるように取り組みました。2月には防犯協会の外部講師の方による防犯講習会を開催しました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 町内会活動に参加し、地域住民同士のつながりをもつ。

一住民として、地域とつながることができるよう町内会活動（夏祭り、防災訓練、地域清掃等）に参加し、地域社会における障害者理解に努めました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 大規模震災や火災を想定した避難訓練を計画的に実施する
 - グループホーム通信（「ももたろう通信」）を発行し、地域社会や関係機関等へ情報発信をする
- 各ホームにおいて、消防訓練を年2回以上実施し、夜間を想定した訓練を実施しました。また南部2ヶ所のグループホームは、洪水の際の危険区域となっているため、洪水時の避難確保計画を作成しました。

グループホーム通信（「ももたろう通信」）を年3回発行し、グループホームの入居者の生活等について情報の発信を行いました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- グループホームにおける居宅介護の利用実績の増加
- 三交替制導入に向けた労働形態の見直し
- 送迎の見直しに伴う整理

グループホームにおける居宅介護利用については、昨年度経過措置により3年間延長となりましたが、関係団体とともに恒久化に向けた要望を引き続き行っていきたいと思います。居宅介護の利用実績については相談事業と連携し、支給時間数の増量を行うとともに職員体制の確保に努めました。居宅介護提供時間の増量により、今年度は約15,00千円の増収につながりました。しかしながら、まだ目標値には達していないため、次年度はさらに支給時間等の見直しを図りたいと思います。

夜勤勤務に関しては、長時間勤務回避のために三交替制の勤務形態についてシフトを検討しています。三交替制勤務導入に向けては、十分な職員数の確保が必要となり、現状ではすぐに実施することは難しい状況にありますが、実施できる部分から進めていきたいと思っています。

送迎については、段階的にグループホームによる送迎から通所事業所による送迎へ切替えを実施し、現在は全ホームが通所事業所による送迎となっています。このことにより、約400万円の送迎加算が通所事業所へ加算されました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る
- 各ホーム職員会議及び職員全体研修会（年2回）を実施する
- 法人内の他のグループホームでの現場実習を実施する

グループホーム職員は勤務形態上、外部の研修に参加する機会が少ないため、毎月の職員会議において内部研修（内容は下記参照）を実施し、スキルアップを図りました。

グループホーム全体の職員を対象とした研修を年2回（5月、12月）実施しました。さらに、全職員（非常勤）を対象に担当するグループホーム以外での現場研修/ミニ研修会を実施し、他のグループホーム入居者の様子を知り、職員と情報交換をもつ機会を設けました。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 本人中心の個別支援計画の推進	各ホーム職員会議の定期的開催及びケース検討会の実施	各ホーム職員会議にて、個別支援計画の内容について情報共有ができた。日々の記録に活かすために各入居者の記録のポイントを作成した。
(2) 通所施設等との連携強化	日々の入居者状況の連絡（健面等の引継ぎ）	日々のグループホームと通所施設での連絡（引継ぎ）以外に必要な応じて、ケア会議を実施し、タイムリーな情報共有に努めた。繰り返し事故（怪我、骨折）が起きないように振り返りと今後の対策を話し合う機会を設けた。
(3) グループホーム管理センターの開設準備	グループホーム管理センター開設に向けた検討	グループホーム管理センターについて十分に検討することはできなかったが、法人内ヘルプ事業の再編と併せて、次年度地域生活サポートセンター（ピボット若林）にグループホーム管理センターを併設することとなった。
(4) 他法人 GH 等との連携	GH に関する勉強会、研修会への参加	仙台市グループホーム連絡会に加入し、研修会へ参加する等して、連携・情報交換を行うことができた。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 2 回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討等
職員会議	月 1 回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月 1 回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等
各ホーム職員会議	隔月 1 回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年 2 回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
各グループホーム連絡会	年 3 回程度	GH・通所事業所の情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月 1 回	意見交換、入居者イベント企画等

※ その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

< 内部研修 >

◇グループホーム職員会議 ・ETV 特集より「知的障害者の結婚」(4 月) ・「グループホーム援助のポイント(日本 GH 学会刊行)より」(5 月) ・「認知の障害について」(7 月) ・NHK ハートネット TV より「障害者殺傷事件から 2 年～福祉現場で働く人の本音」(8 月) ・「すてーじ」(O.M さん)(9 月) ・理解と対応～事例検討 (I.Y さん)(K.A さん)(10 月) ・明石洋子氏後援会 DVD 上映 (11 月) ・視察研修報告会 (1 月) ・理解と対応～事例検討 (S.N さん)(S.E さん)(2 月) ・今年度の事故の振り返り～事故報告集計より (3 月)	◇グループホーム職員全体研修会 ・第 1 回職員全体研修会 (5/30.A 型センターにて)「緊急時対応について」「グループホームにおける援助の基本を学ぼう」 ・第 2 回職員全体研修会 (兼権利擁護委員会主催内部研修)(12/13.A 型センターにて)「自己覚知：自分を知ること～セルフチェックシートの記入やグループワークを通して、自らの支援を振り返る機会を持つ」 ・法人全体非常勤職員等研修会 (6/30.コペルにて)
---	--

< 外部研修 >

・強度行動障害支援者養成研修(基礎)(八咫) ・甲種防火管理者講習(加藤) ・アーチル特別講座行動障害がある方の適切な支援の在り方(後藤、東海林) ・同行援護従事者研修(増本) ・衛生推進者養成講習(半沢) ・県社協クレーム対応研修(後藤) ・第 15 回日本 GH 学会全国大会 in あいち(東海林) ・船形コロニー福祉セミナー(宮本、坂本) ・県社協コミュニケーション技術、対人援助研修(菅原、高橋、後藤) ・宮城県福祉協会地域支援セミナー(加藤、高橋、東海林)	・仙団協視察研修(後藤) ・職員会主催視察研修(菅原) ・県社協コミュニケーション技術、対人援助研修(菅原、高橋、後藤) ・宮城県福祉協会地域支援セミナー(加藤、高橋、東海林) ・連合保護者会セミナー ・仙台つどいの家「すてーじ」 ・仙団協福祉講座(高橋、宮本) ・仙団協福祉フォーラム(加藤、後藤、高階) ・仙台市障害者グループホーム研修会(飯田、高橋、坂本、菅原、後藤)
---	---

IV 參考資料

1 日中活動支援部門 利用実績

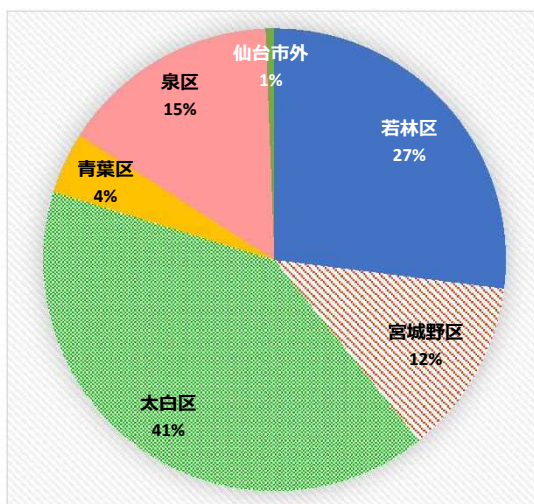
■利用者出欠状況

平成30年4月1日～平成31年3月31日

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	19	21	22	22	22	20	23	22	19	20	20	22	252
仙台つどいの家	仙台	利用予定者数	703	777	786	781	814	691	851	788	703	713	710	782	9,099
		実利用者数	612	664	695	697	698	602	764	691	623	655	642	680	8,023
		利用率	87.1%	85.5%	88.4%	89.2%	85.7%	87.1%	89.8%	87.7%	88.6%	91.9%	90.4%	87.0%	88.2%
	さんしょ	利用予定者数	123	133	135	138	146	120	139	139	124	124	123	138	1,582
		実利用者数	104	118	125	121	110	93	115	106	91	101	93	106	1,283
		利用率	84.6%	88.7%	92.6%	87.7%	75.3%	77.5%	82.7%	76.3%	73.4%	81.5%	75.6%	76.8%	81.1%
	合計	利用予定者数	826	910	921	919	960	811	990	927	827	837	833	920	10,681
		実利用者数	716	782	820	818	808	695	879	797	714	756	735	786	9,306
		利用率	86.7%	85.9%	89.0%	89.0%	84.2%	85.7%	88.8%	86.0%	86.3%	90.3%	88.2%	85.4%	87.1%
		一日平均	37.68	37.24	37.27	37.18	36.73	34.75	38.22	36.23	37.58	37.80	36.75	35.73	36.93
つどいの家・コベル	コベル①	開所日数	20	21	22	22	22	19	23	21	19	20	20	21	250
		利用予定者数	382	419	423	410	419	352	418	390	360	374	378	389	4,714
		実利用者数	362	391	406	393	388	327	396	378	344	356	366	375	4,482
		利用率	94.8%	93.3%	96.0%	95.9%	92.6%	92.9%	94.7%	96.9%	95.6%	95.2%	96.8%	96.4%	95.1%
	コベル②	利用予定者数	382	395	414	427	405	374	445	406	365	371	380	395	4,759
		実利用者数	359	359	397	404	373	317	414	379	333	333	337	374	4,379
		利用率	94.0%	90.9%	95.9%	94.6%	92.1%	84.8%	93.0%	93.3%	91.2%	89.8%	88.7%	94.7%	92.0%
	オリザ	利用予定者数	102	92	94	98	91	83	100	91	89	88	89	92	1,109
		実利用者数	58	65	58	50	49	49	68	49	56	46	52	63	663
		利用率	56.9%	70.7%	61.7%	51.0%	53.8%	59.0%	68.0%	53.8%	62.9%	52.3%	58.4%	68.5%	59.8%
	合計	利用予定者数	866	906	931	935	915	809	963	887	814	833	847	876	10,582
		実利用者数	779	815	861	847	810	693	878	806	733	735	755	812	9,524
		利用率	90.0%	90.0%	92.5%	90.6%	88.5%	85.7%	91.2%	90.9%	90.0%	88.2%	89.1%	92.7%	90.0%
		一日平均	38.95	38.81	39.14	38.50	36.82	36.47	38.17	38.38	38.58	36.75	37.75	38.67	38.10
つどいの家・アプリ	アプリ	開所日数	19	22	22	22	22	19	23	22	20	19	16	22	248
		利用予定者数	578	668	649	668	646	581	664	674	582	580	489	673	7,452
		実利用者数	542	624	618	627	576	527	632	617	562	522	422	619	6,888
		利用率	93.8%	93.4%	95.2%	93.9%	89.2%	90.7%	95.2%	91.5%	96.6%	90.0%	86.3%	92.0%	92.4%
		一日平均	28.53	28.36	28.09	28.50	26.18	27.74	27.48	28.05	28.10	27.47	26.38	28.14	27.77
	ミント	開所日数	19	22	22	22	22	19	22	21	20	19	16	21	245
		利用予定者数	110	127	123	128	123	111	127	122	110	113	94	123	1,411
		実利用者数	100	123	117	122	107	98	119	111	101	106	84	119	1,307
		利用率	90.9%	96.9%	95.1%	95.3%	87.0%	88.3%	93.7%	91.0%	91.8%	93.8%	89.4%	96.7%	92.6%
		一日平均	5.26	5.59	5.32	5.55	4.86	5.16	5.41	5.29	5.05	5.58	5.25	5.67	5.33
	合計	利用予定者数	688	795	772	796	769	692	791	796	692	693	583	796	8,863
		実利用者数	642	747	735	749	683	625	751	728	663	628	506	738	8,195
		利用率	93.3%	94.0%	95.2%	94.1%	88.8%	90.3%	94.9%	91.5%	95.8%	90.6%	86.8%	92.7%	92.5%
		一日平均	33.79	33.95	33.41	34.05	31.05	32.89	32.89	33.33	33.15	33.05	31.63	33.80	33.11
つどい八木の山家	八木山	開所日数	19	21	22	21	21	20	22	21	19	19	19	20	244
		利用予定者数	302	332	347	332	326	316	348	333	299	301	299	280	3,815
		実利用者数	264	293	303	281	278	247	291	302	261	258	264	270	3,312
		利用率	87.4%	88.3%	87.3%	84.6%	85.3%	78.2%	83.6%	90.7%	87.3%	85.7%	88.3%	96.4%	86.8%
		一日平均	13.89	13.95	13.77	13.38	13.24	12.35	13.23	14.38	13.74	13.58	13.89	13.50	13.57
若林障害者福祉センター	生活介護	開所日数	19	23	22	21	23	21	22	21	21	19	19	21	252
		利用予定者数	72	84	78	80	89	78	85	82	71	71	76	78	944
		実利用者数	49	56	56	60	61	54	61	56	54	50	52	60	669
		利用率	68.1%	66.7%	71.8%	75.0%	68.5%	69.2%	71.8%	68.3%	76.1%	70.4%	68.4%	76.9%	70.9%
	生活訓練	利用予定者数	4	4	4	4	5	4	5	5	4	4	4	4	51
		実利用者数	4	3	3	3	4	3	4	4	3	3	3	4	41
		利用率	100.0%	75.0%	75.0%	75.0%	80.0%	75.0%	80.0%	80.0%	75.0%	75.0%	75.0%	100.0%	80.4%
	合計	利用予定者数	76	88	82	84	94	82	90	87	75	75	80	82	995
		実利用者数	53	59	59	63	65	57	65	60	57	53	55	64	710
		利用率	69.7%	67.0%	72.0%	75.0%	69.1%	69.5%	72.2%	69.0%	76.0%	70.7%	68.8%	78.0%	71.4%
		一日平均	2.79	2.57	2.68	3.00	2.83	2.71	2.95	2.86	2.71	2.79	2.89	3.05	2.82
日中活動部門 法人合計		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		利用予定者数	2,758	3,031	3,053	3,066	3,064	2,710	3,182	3,030	2,707	2,739	2,642	2,954	34,936
		実利用者数	2,454	2,696	2,778	2,758	2,644	2,317	2,864	2,693	2,428	2,430	2,315	2,670	31,047
		利用率	89.0%	88.9%	91.0%	90.0%	86.3%	85.5%	90.0%	88.9%	89.7%	88.7%	87.6%	90.4%	88.9%
		一日平均 (事業所あたり)	25.42	25.30	25.25	25.22	24.13	23.84	25.09	25.04	25.15	24.79	24.58	24.95	24.90

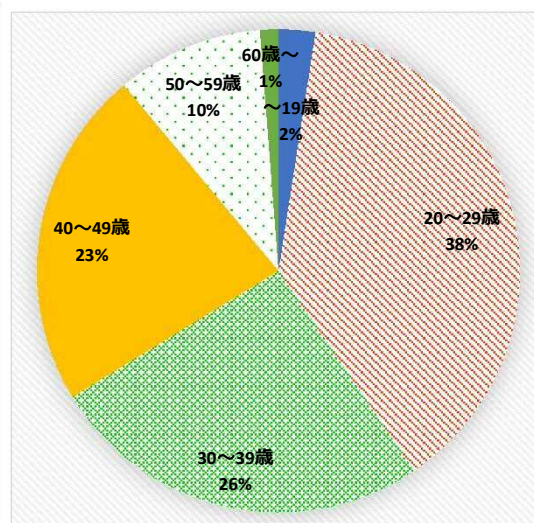
■利用者居住地

		若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
つどいの家 仙台	仙台	1	10	1	3	21	1	37
	さんしょ	1	3	0	0	4	0	8
	合計	2	13	1	3	25	1	45
つどいの家 コペルの家	コペル①	11	2	6	0	0	0	19
	コペル②	17	2	5	2	0	0	26
	オリザ	2	2	3	0	0	0	7
	合計	30	6	14	2	0	0	52
つどいの家 アプリ	アプリ	1	0	31	0	0	0	32
	ミント	0	0	7	0	0	0	7
	合計	1	0	38	0	0	0	39
つどいの家 八木山	生活介護	2	0	11	2	0	0	15
福祉センター 若林障害者	生活介護	8	1	2	0	0	0	11
	生活訓練	1	0	0	0	0	0	1
	合計	9	1	2	0	0	0	12
法人 通所合計	合計	44	20	66	7	25	1	163



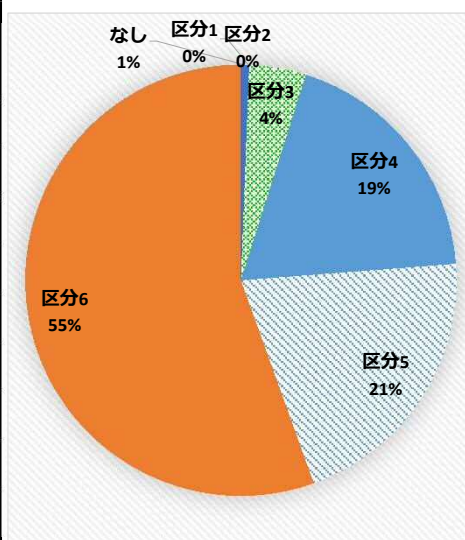
■利用者年齢区分

		～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
仙台つどいの家	仙台	0	10	8	16	3	0	37
	さんしょ	0	4	0	4	0	0	8
	合計	0	14	8	20	3	0	45
つどいの家 コペルの家	コペル①	0	7	8	3	1	0	19
	コペル②	0	3	8	7	6	2	26
	オリザ	1	3	2	0	1	0	7
	合計	1	13	18	10	8	2	52
つどいの家 アプリ	アプリ	1	16	8	5	2	0	32
	ミント	0	6	1	0	0	0	7
	合計	1	22	9	5	2	0	39
つどいの家 八木山	生活介護	1	8	2	2	2	0	15
福祉センター 若林障害者	生活介護	1	5	4	0	1	0	11
	生活訓練	0	0	1	0	0	0	1
	合計	1	5	5	0	1	0	12
法人 通所合計	合計	4	62	42	37	16	2	163



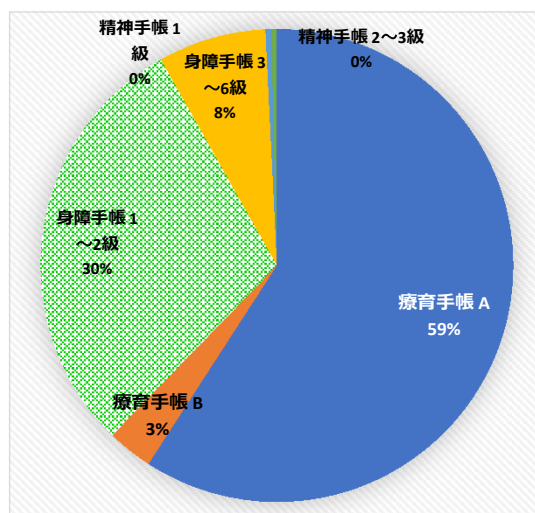
■障害支援区分

		なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
つどいの家 仙台	仙台	0	0	0	3	9	7	18	5.1
	さんしよ	0	0	0	0	0	0	8	6.0
	合計	0	0	0	3	9	7	26	5.2
つどいの家 コペルの家	コペル①	0	0	0	0	7	6	6	4.9
	コペル②	0	0	0	0	4	4	18	5.5
	オリザ	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	0	11	10	31	5.4
つどいの家 アプリ	アプリ	0	0	0	1	4	7	20	5.4
	ミント	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	1	4	7	27	5.5
つどいの山家	生活介護	0	0	0	2	6	5	2	4.5
若林障害者 福祉センター	生活介護	0	0	0	0	1	5	5	5.4
	生活訓練	0	0	0	1	0	0	0	3.0
	合計	1	0	0	1	1	5	5	5.2
法人 通所合計	合計	1	0	0	7	31	34	91	5.3



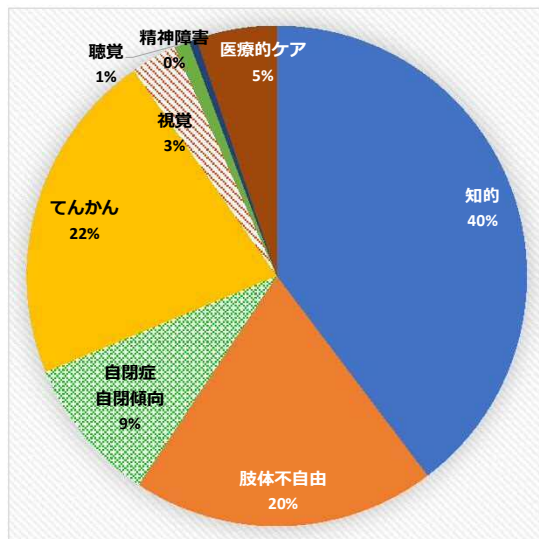
■手帳保持状況

		療育手帳		身障手帳		精神手帳	
		A	B	1級 2級	3級 4級 5級 6級	1級 2級 3級	4級 5級 6級
つどいの家 仙台	仙台	35	2	12	8	0	0
	さんしよ	8	0	8	0	0	0
	合計	43	2	20	8	0	0
つどいの家 コペルの家	コペル①	19	0	1	3	0	0
	コペル②	23	1	17	4	0	0
	オリザ	7	0	7	0	0	0
	合計	49	1	25	7	0	0
つどいの家 アプリ	アプリ	31	1	16	3	0	0
	ミント	7	0	7	0	0	0
	合計	38	1	23	3	0	0
つどいの山家	生活介護	12	2	3	1	1	1
障害福祉 若林センター	生活介護	10	1	5	0	0	0
	生活訓練	0	1	0	0	0	0
	合計	10	2	5	0	0	0
法人 通所合計	合計	152	8	76	19	1	1



■利用者障害種別

		知的	肢体不自由	自閉傾向 自閉症	てんかん	視覚	聴覚	精神障害	医療的ケア
つどいの家 仙台家	仙台	37	15	18	19	4	4	0	1
	さんしょ	8	8	1	8	2	0	0	6
	合計	45	23	19	27	6	4	0	7
つどいの家 コペルの家	コペル①	19	1	6	7	0	0	0	0
	コペル②	26	17	0	18	1	0	0	1
	オリザ	7	7	0	7	0	0	0	6
	合計	52	25	6	32	1	0	0	7
つどいの家 アプリの家	アプリ	32	15	9	19	1	0	0	0
	ミント	7	7	0	5	3	0	0	4
	合計	39	22	9	24	4	0	0	4
つどいの家 八木の山家	生活介護	15	4	7	4	1	0	1	0
福祉センター 若林障害者	生活介護	9	5	3	4	1	0	1	3
	生活訓練	0	0	1	0	0	0	1	0
	合計	9	5	4	4	1	0	2	3
法人 通所合計	合計	160	79	38	87	12	4	2	21



2 地域生活支援部門 利用実績

■ すてっぷ・はうす 事業実績

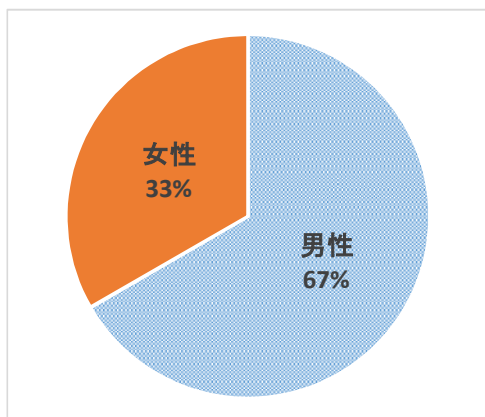
(平成31年3月末日時点)

利用登録者数 : 93名(平成29学年度比: -2名)

1. 利用登録者状況

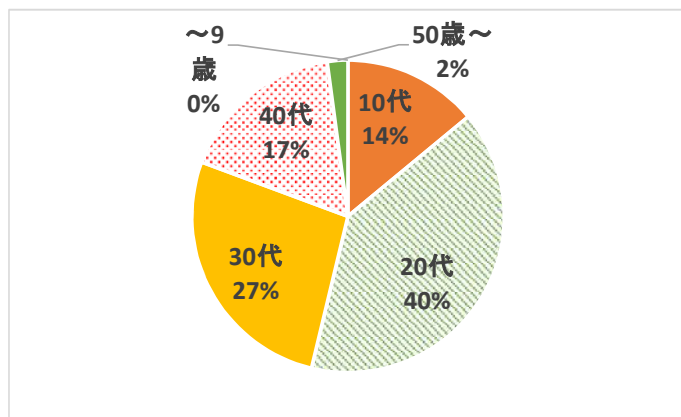
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	62	31



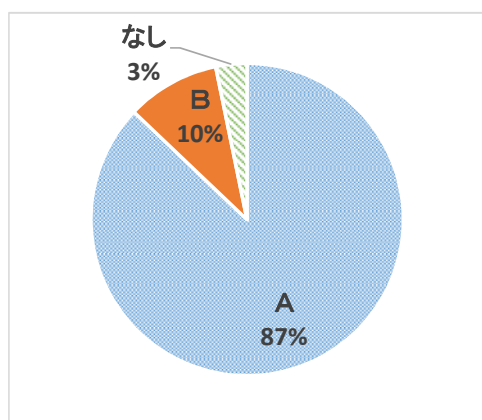
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	13	37	25	16	2



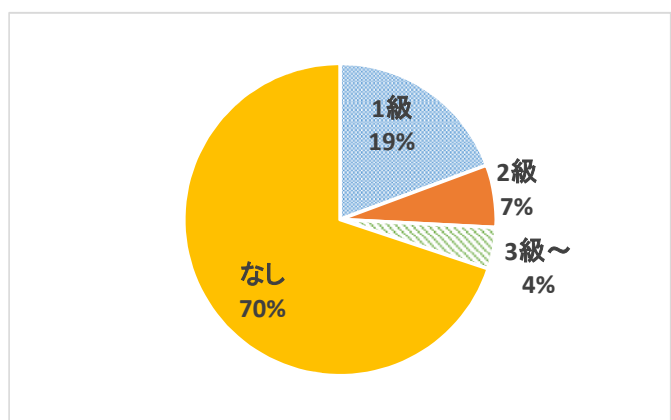
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	81	9	3



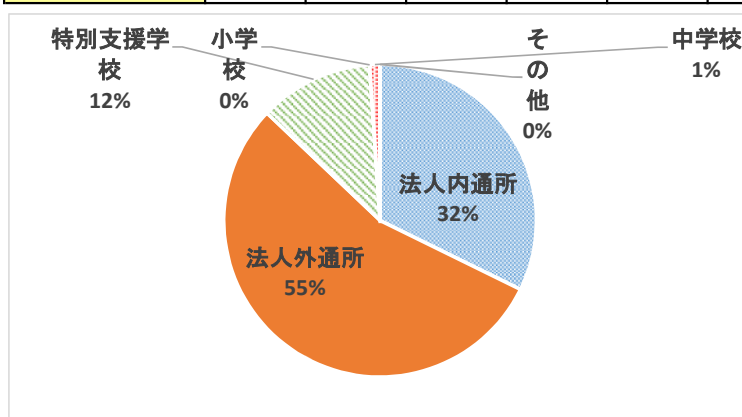
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	18	6	4	65



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	30	51	11	0	1	0



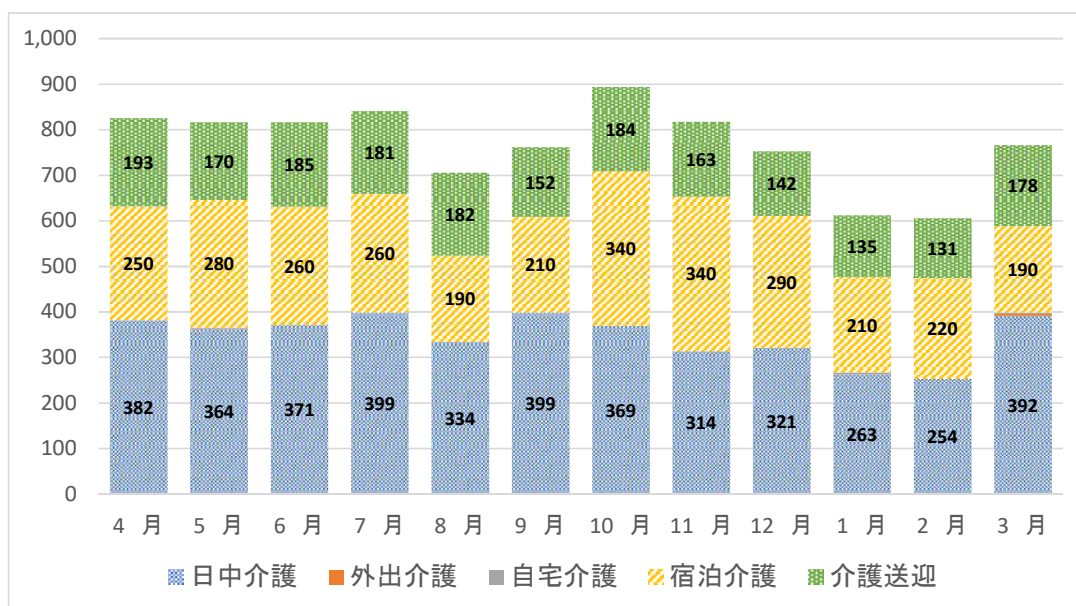
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	382	0	0	250	193	825
5 月	364	2	0	280	170	816
6 月	371	0	0	260	185	816
7 月	399	0	0	260	181	840
8 月	334	0	0	190	182	706
9 月	399	0	0	210	152	761
10 月	369	0	0	340	184	893
11 月	314	0	0	340	163	817
12 月	321	0	0	290	142	753
1 月	263	0	4	210	135	612
2 月	254	0	1	220	131	606
3 月	392	4	2	190	178	766
合 計	4,162	6	7	3,040	1,996	9,211

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ だいち 事業実績

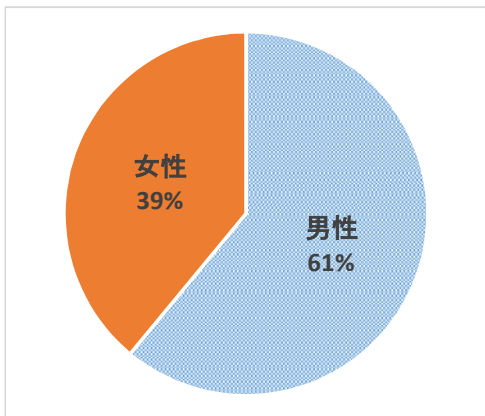
(平成31年3月末日時点)

利用登録者数：95名(平成29年度比：+1名)

1. 利用登録者状況

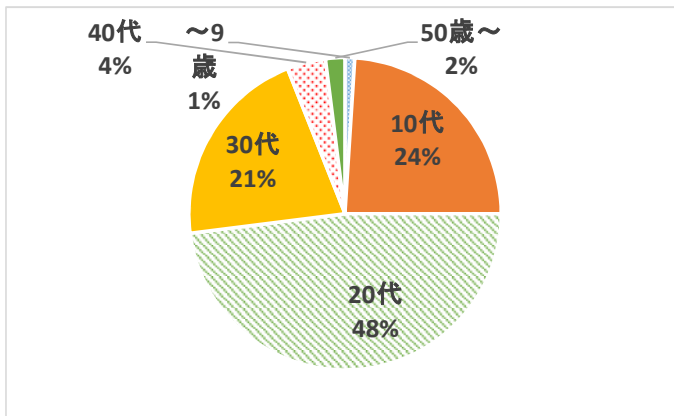
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	61	39



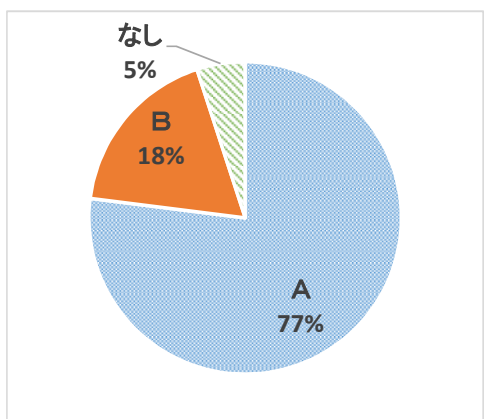
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	24	48	21	4	2



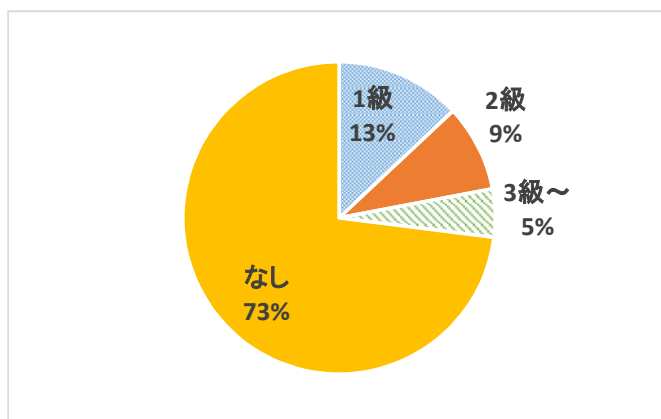
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	77	18	5



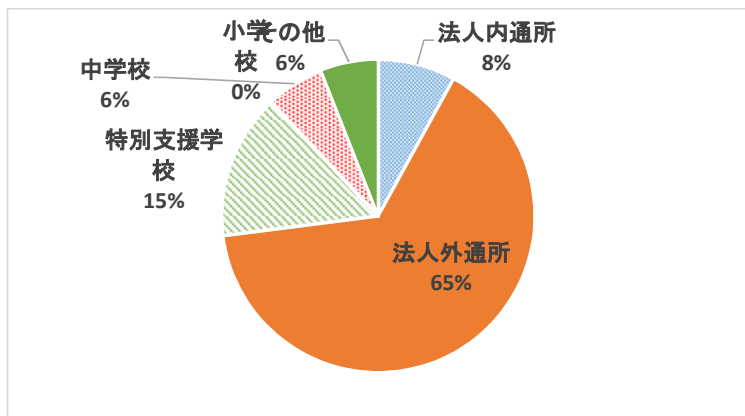
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	13	9	5	73



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	8	65	15	0	6	6



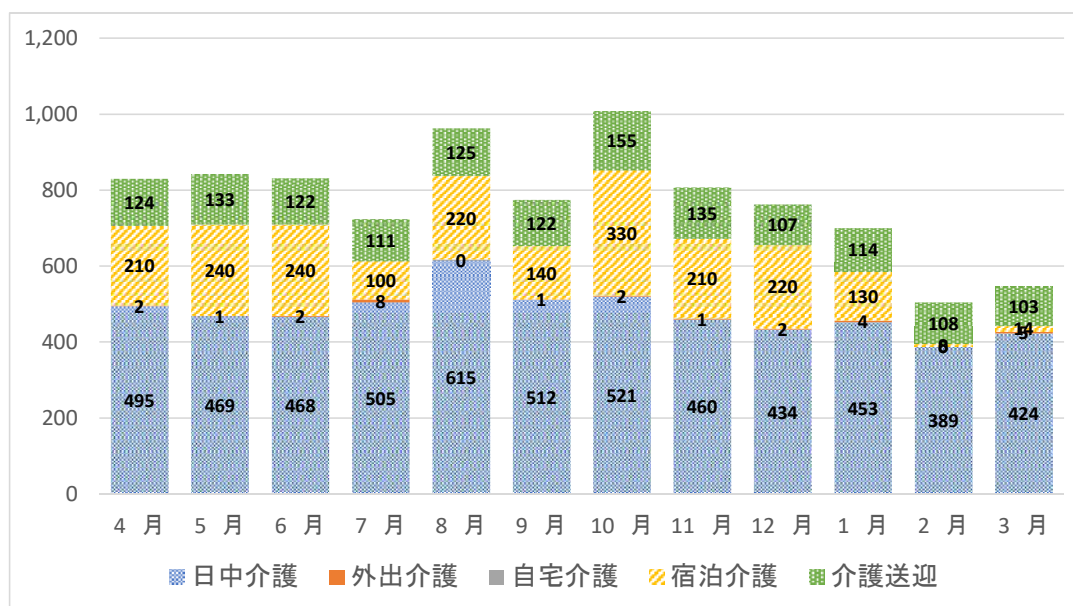
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	495	2	0	210	124	831
5 月	469	1	0	240	133	843
6 月	468	2	0	240	122	832
7 月	505	8	0	100	111	724
8 月	615	0	3	220	125	963
9 月	512	1	0	140	122	775
10 月	521	2	0	330	155	1,008
11 月	460	1	2	210	135	808
12 月	434	2	0	220	107	763
1 月	453	4	0	130	114	701
2 月	389	0	0	8	108	505
3 月	424	5	0	14	103	546
合 計	5,745	28	5	2,062	1,459	9,299

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間

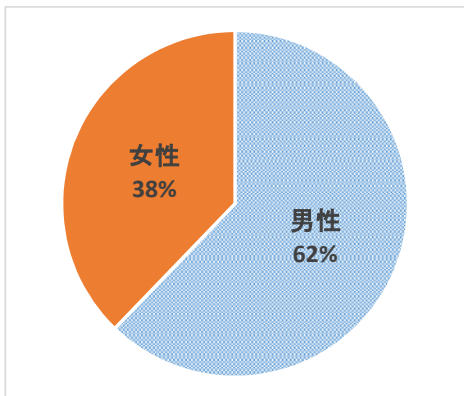


利用登録者数 :90名(平成29年度比:±0名)

1. 利用登録者状況

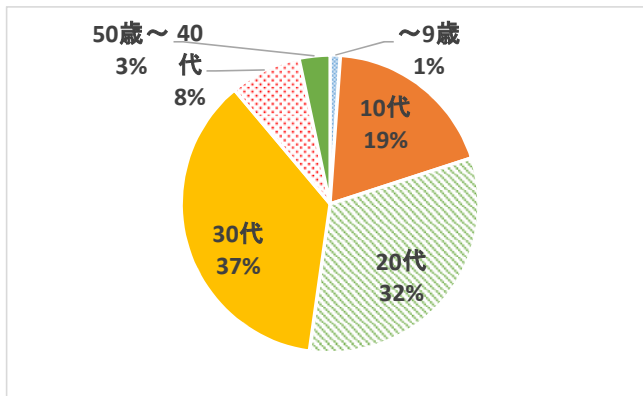
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	56	34



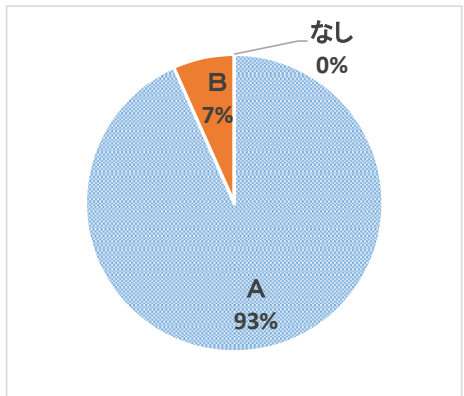
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	17	29	33	7	3



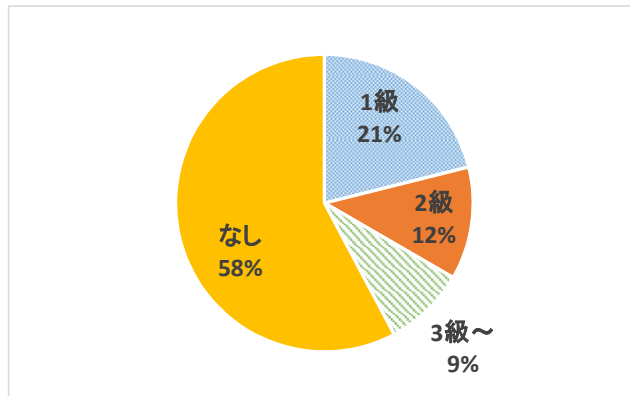
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	84	6	0



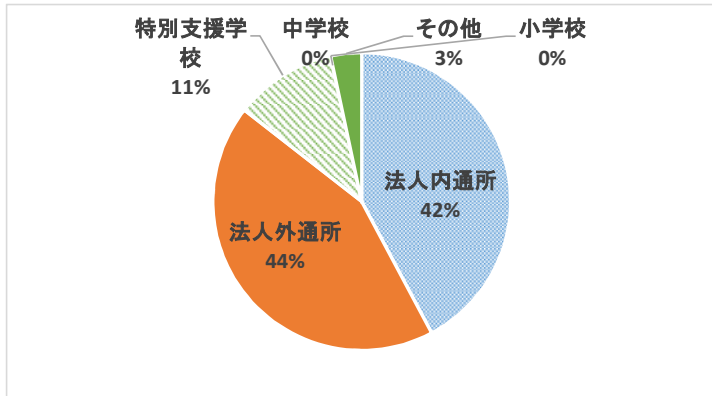
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	19	11	8	52



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	38	39	10	0	0	3



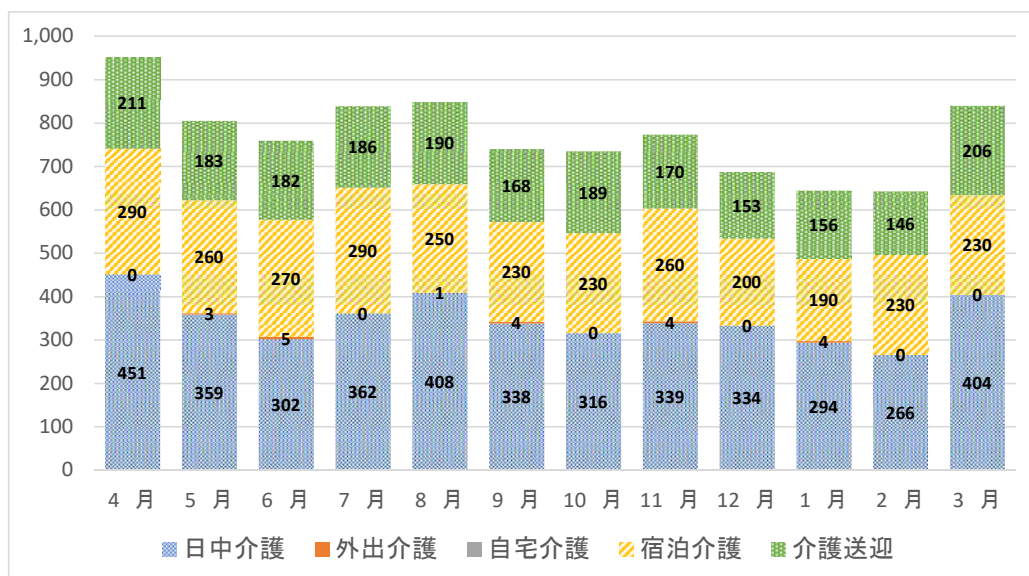
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	451	0	0	290	211	952
5 月	359	3	0	260	183	805
6 月	302	5	0	270	182	759
7 月	362	0	0	290	186	838
8 月	408	1	0	250	190	849
9 月	338	4	0	230	168	740
10 月	316	0	0	230	189	735
11 月	339	4	0	260	170	773
12 月	334	0	0	200	153	687
1 月	294	4	0	190	156	644
2 月	266	0	0	230	146	642
3 月	404	0	0	230	206	840
合 計	4,173	21	0	2,930	2,140	9,264

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ ぴぼっと 事業実績

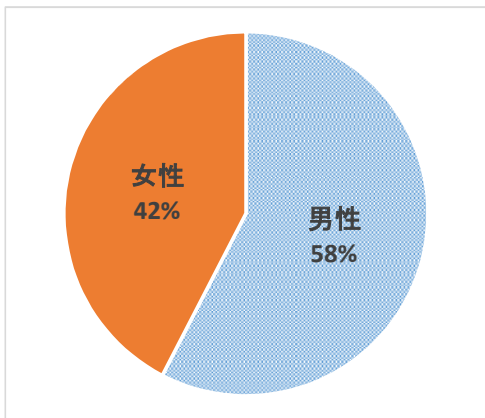
(平成31年3月末日時点)

利用登録者数 :92名(平成29年度比:△1名)

1. 利用登録者状況

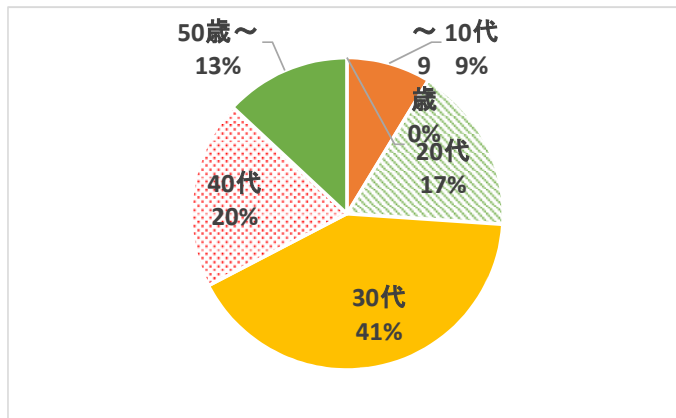
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	53	39



【年齢別】

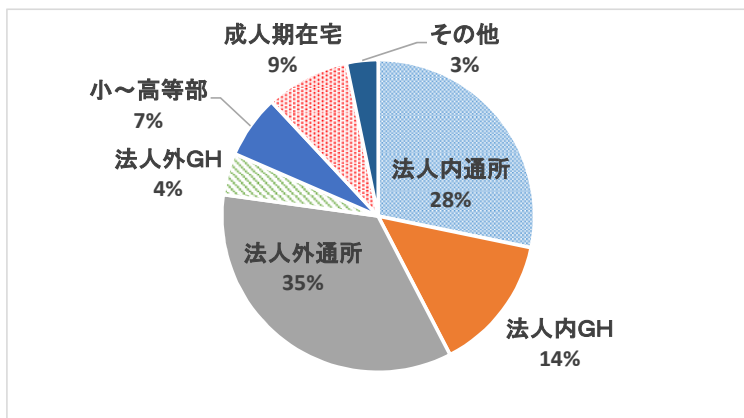
利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	8	16	38	18	12



【在籍】

※法人内外のグループホーム入居の方も含む。

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	26	13	32	4	6	8	3



2. 利用状況

(単位:時間)

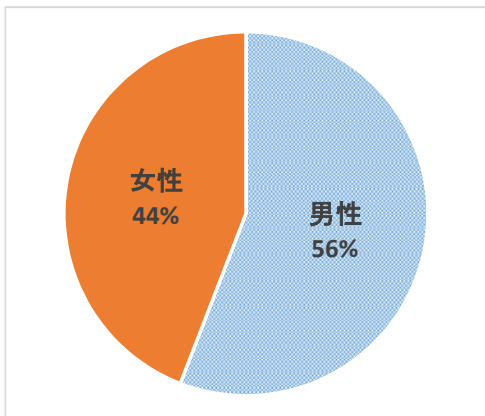
	平成28年度	平成29年度	平成30年度
居宅介護	8,348.8	7,546.5	8,096.0
(うち、GH利用数)	4,017.0	4,152.5	5,305.0
重度訪問介護	1,267.5	1,380.5	1,470.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
行動援護	0.0	0.0	0.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
同行援護	291.5	368.0	529.0
(うち、GH利用数)	291.5	318.0	260.5
移動支援	10,685.5	9,719.5	9,518.0
(うち、GH利用数)	952.5	1,222.0	1,823.0
合計	20,593.3	19,014.5	19,613.0
(うち、GH利用数)	5,261.0	5,692.5	7,388.5

利用登録者数 :68名(平成29年度比:0名)

1. 利用登録者状況

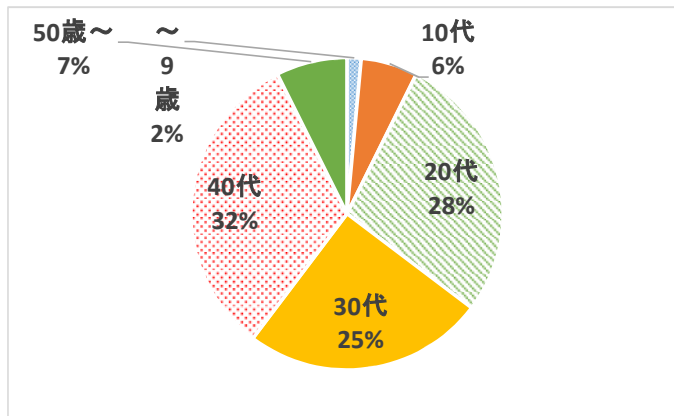
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	38	30



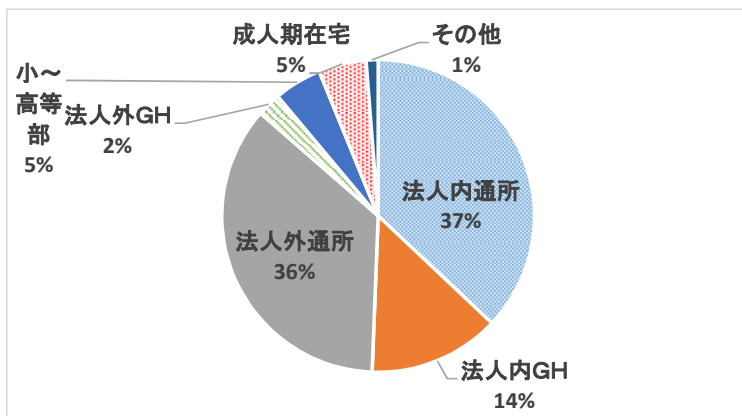
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	4	19	17	22	5



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	30	11	29	2	4	4	1



2. 利用状況

(単位:時間)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
居宅介護	7,964.0	9,129.5	9,961.5
(うち、GH利用数)	5,168.0	6,298.0	6,986.5
重度訪問介護	0.0	0.0	0.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
行動援護	250.5	256.0	157.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
同行援護	209.5	176.5	97.5
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
移動支援	4,180.5	4,244.5	4,110.5
(うち、GH利用数)	620.0	764.0	488.5
合計	12,604.5	13,806.5	14,326.5
(うち、GH利用数)	5,788.0	7,062.0	7,475.0

○備考

- ・登録者数の推移
28年度 64名
29年度 68名
30年度 68名

■ 障害者相談支援事業所「とびら」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家							
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ぴぽっと支倉 障害者相談支援事業所 とびら							
	住 所	青葉区支倉町2ー35 ぴぽっと支倉内							
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	173	21	5	116	33	18	1	1	2
障害児	92	11	13	59	2	29	4	0	1
計	265	32	18	175	35	47	5	1	3
支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	386	97	116	642	179	132	1041	0	2593
支 援 内 容									
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数	1244	434	310	187	197	243	160		
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0	0	0		
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数	230	133	44	16	18			3216	
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0			0	

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	5	5	7	11	6	6	8	7	4	8	3	7	77.0
療育技術指導事業	0	3	3	0	4	1	2	0	2	1	1	2	19.0
計	5	8	10	11	10	7	10	7	6	9	4	9	96.0

平成30年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	11	21	15	18	16	18	19	19	13	21	22	22	215.0	17.9
モニタリング	41	36	34	39	45	40	38	42	42	59	41	45	502.0	41.8
計	52	57	49	57	61	58	57	61	55	80	63	67	717.0	59.8

■ 障害者相談支援事業所「くれよん」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家								
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ピボット若林 障害者相談支援事業所 くれよん								
	住 所	若林区遠見塚2－16－15 ピボット若林内								
対象		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者		57	5	1	37	11	7	1	1	7
障害児		16	5	2	10	0	6	0	1	2
計		73	10	3	47	11	13	1	2	9
支 援 方 法										
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計	
延件数	84	17	57	271	33	71	390	0	923	
支 援 内 容										
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済			
延件数	569	97	99	160	54	189	41			
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0	0	0			
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計		
延件数	104	96	57	7	15			1488		
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0			0		

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	5	15	11	9	7	8	10	12	9	4	8	7	105.0
療育技術指導事業	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2.0
計	5	15	11	9	8	9	10	12	9	4	8	7	107.0

平成30年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	11	15	11	10	12	5	15	9	10	16	8	9	131.0	10.9
モニタリング	28	24	29	24	14	18	21	29	19	17	23	12	258.0	21.5
計	39	39	40	34	26	23	36	38	29	33	31	21	389.0	32.4

■ 障害者相談支援事業所「ゆあらいふ」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家												
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター びぼっと南光台 指定障害者相談支援事業所 ゆあらいふ												
	住 所	泉区南光台3-1-24 びぼっと南光台内												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	2	3	9	12	6	4	9	6	6	8	4	15	84.0	7.0
モニタリング	9	7	7	8	5	8	4	7	11	13	13	15	107.0	8.9
計	11	10	16	20	11	12	13	13	17	21	17	30	191.0	15.9

■ 福祉有償運送 事業実績

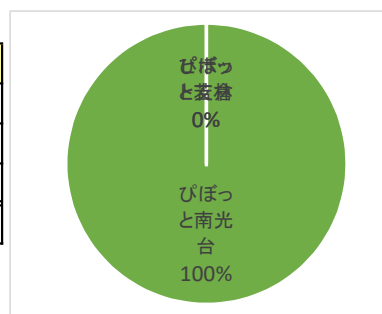
(平成31年月3月末日時点)

1. 利用登録者状況

【総数】

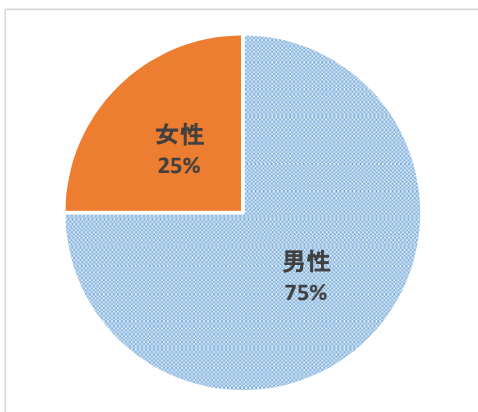
実施事業所名	平成30年度	平成29年度	前年度比
びぼっと南光台	8	9	△ 1
びぼっと支倉	0	1	△ 1
ピボット若林	0	5	△ 5
合 計	8	15	△ 7

※P若林、P支倉は平成29年9月末日をもって事業終了



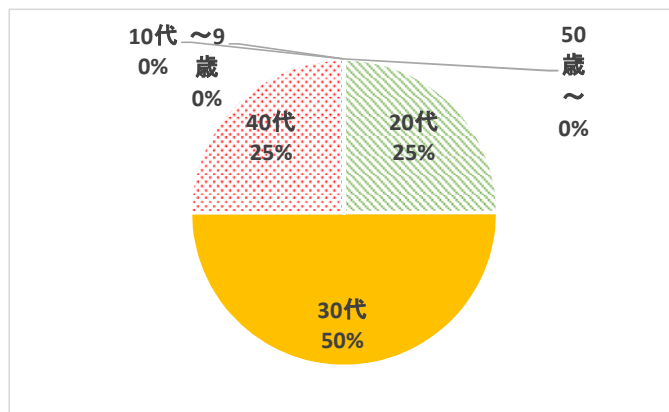
【性別】

事業所名	男性	女性
びぼっと南光台	6	2
びぼっと支倉	0	0
ピボット若林	0	0
合 計	6	2



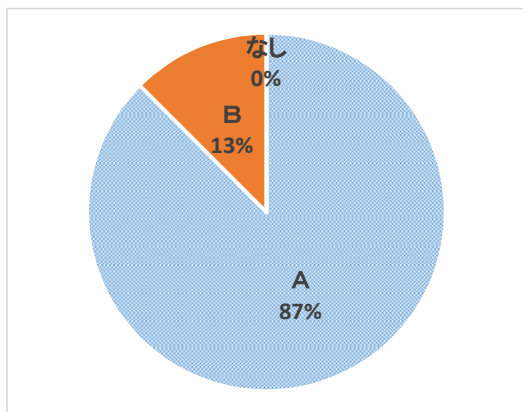
【年齢別】

事業所名	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
びぼっと南光台	0	0	2	4	2	0
びぼっと支倉	0	0	0	0	0	0
ピボット若林	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	2	4	2	0



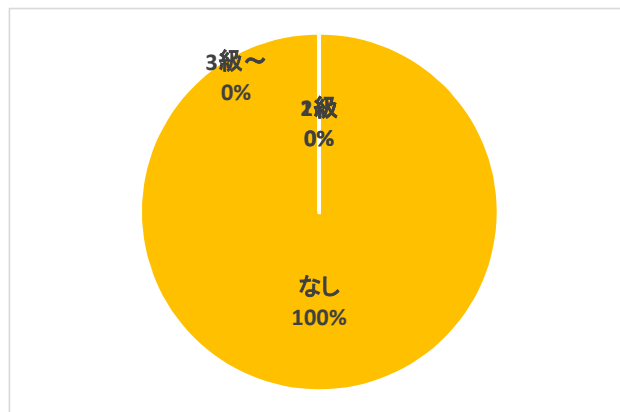
【療育手帳】

事業所名	A	B	なし
びぼっと南光台	7	1	0
びぼっと支倉	0	0	0
ピボット若林	0	0	0
合 計	7	1	0



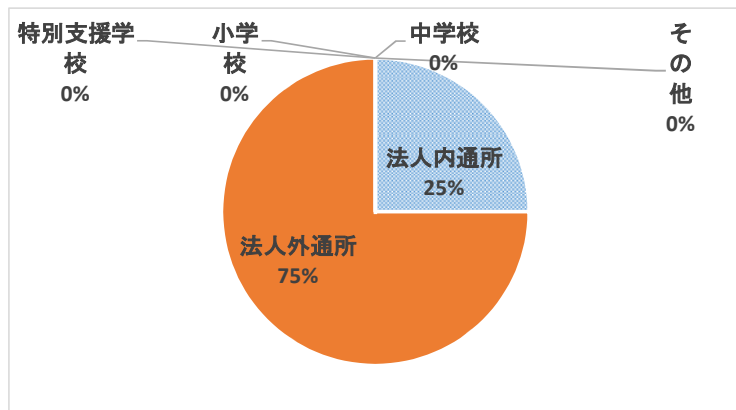
【身障手帳】

事業所名	1級	2級	3級～	なし
びぼっと南光台	0	0	0	8
びぼっと支倉	0	0	0	0
ピボット若林	0	0	0	0
合 計	0	0	0	8



【在 籍】

事業所名	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
びぼっと南光台	2	6	0	0	0	0
びぼっと支倉	0	0	0	0	0	0
ピボット若林	0	0	0	0	0	0
合 計	2	6	0	0	0	0

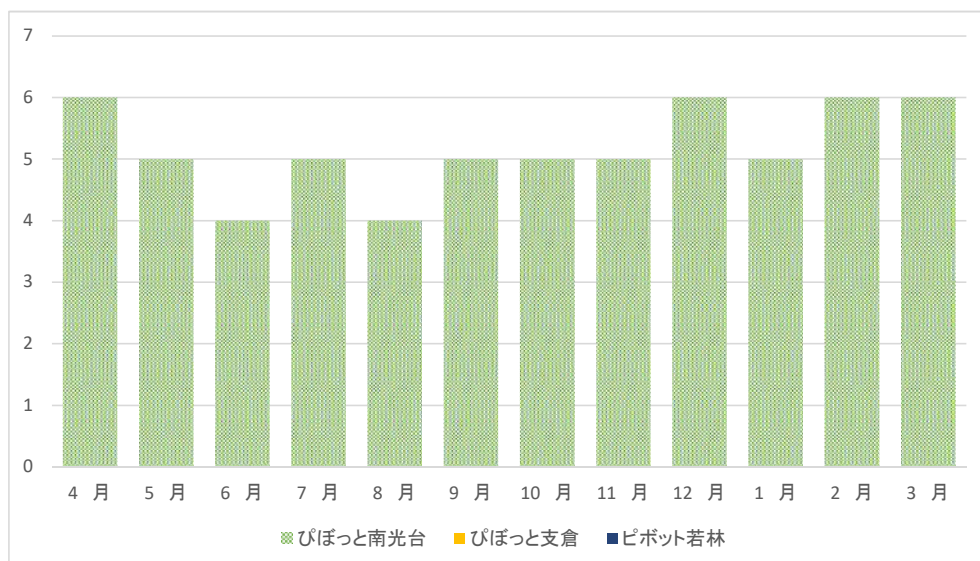


2. 利用状況

【月別運行回数】

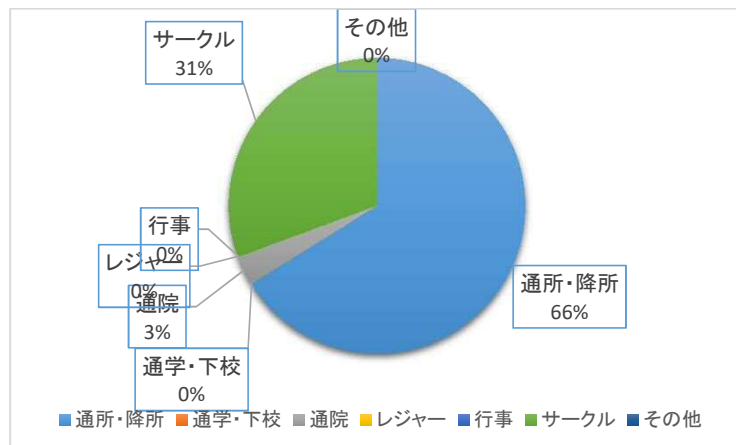
(単位:回)

	びぼっと南光台	びぼっと支倉	ピボット若林	月合計
4 月	6			6
5 月	5			5
6 月	4			4
7 月	5			5
8 月	4			4
9 月	5			5
10 月	5			5
11 月	5			5
12 月	6			6
1 月	5			5
2 月	6			6
3 月	6			6
合 計	62	0	0	62



【利用目的別】

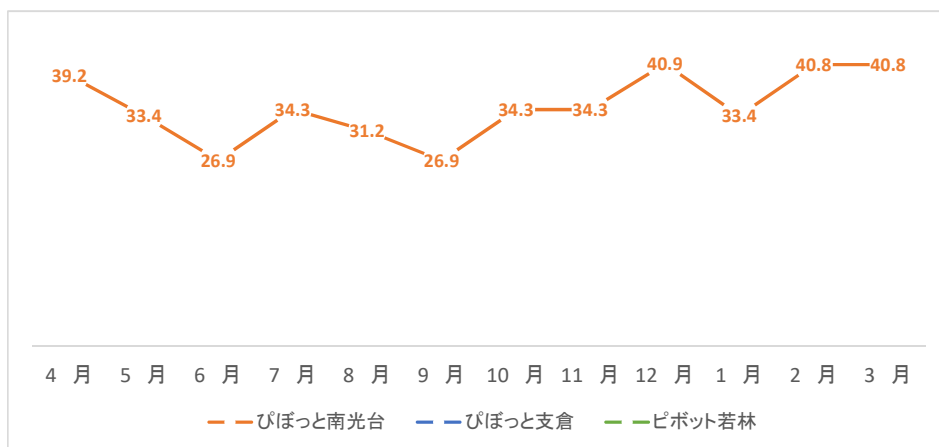
事業所名	通所・降所	通学・下校	通院	レジャー	行事	サークル	その他
びぼっと南光台	41	0	2	0	0	19	0
びぼっと支倉	0	0	0	0	0	0	0
ピボット若林	0	0	0	0	0	0	0
合 計	41	0	2	0	0	19	0



【事業所別 移送距離】

(単位:km)

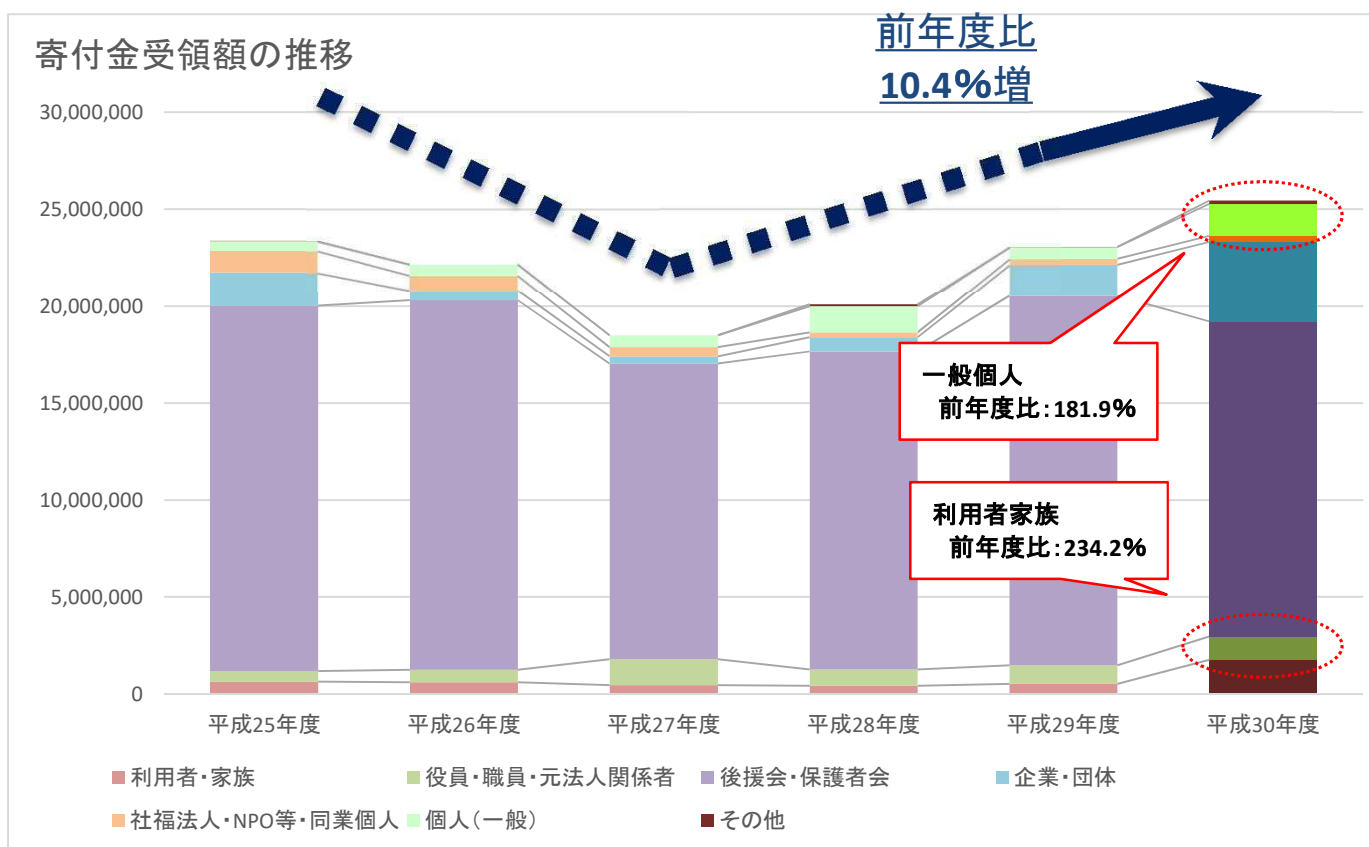
	びぼっと南光台	びぼっと支倉	ピボット若林	月合計
4 月	39.2			39.2
5 月	33.4			33.4
6 月	26.9			26.9
7 月	34.3			34.3
8 月	31.2			31.2
9 月	26.9			26.9
10 月	34.3			34.3
11 月	34.3			34.3
12 月	40.9			40.9
1 月	33.4			33.4
2 月	40.8			40.8
3 月	40.8			40.8
合 計	416.4	0.0	0.0	416.4



3 寄付金受領状況

□ 寄付金の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比(%)
寄付金額	23,364,783	22,171,626	18,492,805	20,095,621	23,051,091	25,447,486	10.4%
(内 訳)	利用者・家族	631,500	601,376	462,159	428,000	1,764,300	235.5%
	役員・職員	536,281	625,055	1,312,629	835,968	619,107	14.1%
	元法人関係者	15,437	10,000	25,000	0	406,657	42.1%
	後援会・保護者会	18,844,301	19,069,020	15,238,055	16,390,286	19,066,618	-14.7%
	企業・団体	1,693,420	512,500	370,000	742,808	1,587,342	157.7%
	社福法人・NPO等	885,652	621,355	171,716	152,352	45,000	-70.5%
	個人(同業関係)	238,372	150,000	300,000	100,000	270,000	58.8%
	個人(一般)	509,820	582,320	613,246	1,354,070	586,205	181.9%
	その他	10,000	0	0	92,137	13,330	1130.8%



(年度毎での特記事項/特徴点)

- ・平成25年度は、まだ東日本大震災被災に伴う支援により「企業」や「同業団体等」の件数・金額が多かった。
- ・平成29年度は、「法人設立25周年記念式典」実施による企業協賛を求めたため件数等が例年以上に増加。
- ・平成29年8月31日付で発行した広報誌「つどい」第24号より郵便払込用紙を同封し、寄付を募集する。
結果、平成29年度下半期から順次件数・金額ともに増加した。
- ・平成30年度は、「コペル衛生設備等改修工事」資金を捻出するため、メディアを含む大々的な募集を実施する。

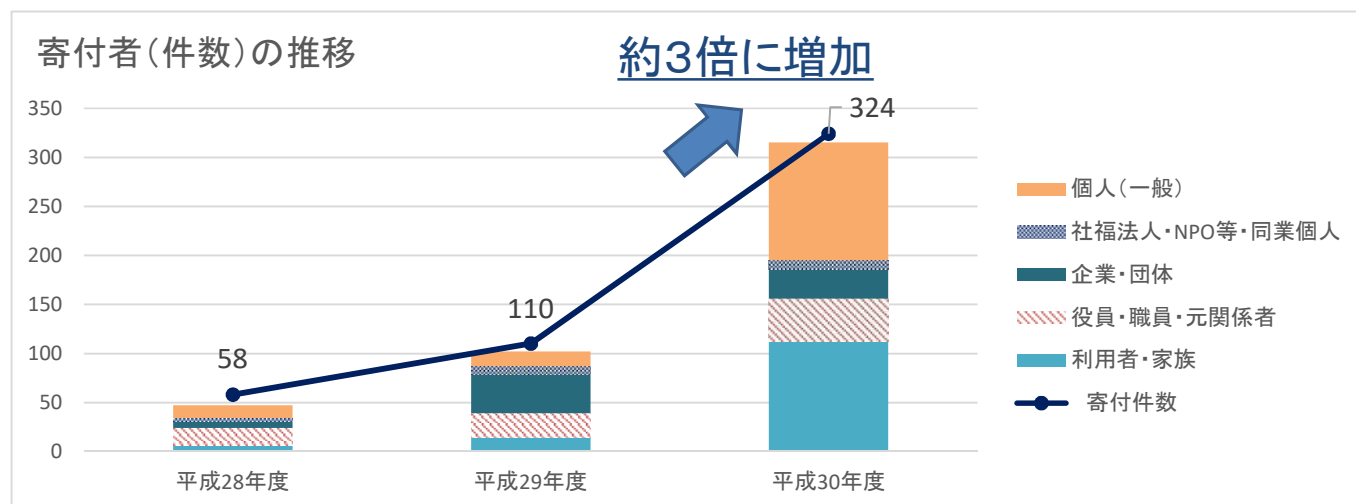
□ 寄付者の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
寄付件数	103	82	73	58	110	324
(内訳)						
利用者・家族	10	12	10	6	14	112
役員・職員	15	17	17	18	17	31
元法人関係者	1	1	2	0	8	13
後援会・保護者会	13	13	11	7	6	7
企業・団体	17	8	8	7	39	29
社福法人・NPO等	24	10	5	2	5	1
個人(同業関係)	5	2	4	1	4	9
個人(一般)	17	19	16	13	15	120
その他	1	0	0	4	2	2

(注記)

・同一の寄付者が複数の事業所に同日又は別日に寄付をした場合を含め、「述べ」で件数をカウントした。

※平成25～27年度



□ ドナーレンジチャート

【平成29年度】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ～	7人・団体	1,721,000円	6.9%	43.3%
50,000円 ～ 199,999円	15人・団体	1,356,146円	14.7%	34.2%
10,000円 ～ 49,999円	49人・団体	745,362円	48.0%	18.8%
5,000円 ～ 9,999円	20人・団体	119,759円	19.6%	3.0%
1円 ～ 4,999円	11人・団体	28,876円	10.8%	0.7%
計	102人・団体	3,971,143円	100.0%	100.0%

【平成30年度】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ～	6人・団体	4,141,982円	1.9%	45.9%
50,000円 ～ 199,999円	32人・団体	2,436,000円	10.2%	27.0%
10,000円 ～ 49,999円	124人・団体	1,834,158円	39.4%	20.3%
5,000円 ～ 9,999円	55人・団体	318,880円	17.5%	3.5%
1円 ～ 4,999円	98人・団体	288,257円	31.1%	3.2%
計	315人・団体	9,019,277円	100.0%	100.0%

※件数、金額とも2倍超

※コペル改修資金の
一口募集額(3,000円)

※ 後援会、保護者会、職員会からの寄付金は除く

4 補助金等収入内訳

N o	名称	分類	補助目的	金額 (円)	受入先 (部門名)
1	仙台市重症心身障害生活介護事業費補助金	行政	事業運営費	13,008,000	日中活動支援
2	仙台市重度重複障害者等受入通所施設等運営費補助金	行政	職員加配	35,012,000	日中活動支援
3	仙台市障害者家族支援等推進事業補助金	行政	事業運営費	48,339,000	地域生活支援
4	同(医療レスパイト)	行政	事業運営費	224,500	地域生活支援
5	仙台市移動支援事業補助金	行政	事業運営費	31,207,138	地域生活支援
6	中央競馬馬主社会福祉財団	民間	車輛整備費	1,900,000	共同生活援助
7	仙台市民間社会福祉施設運営費補助金	行政	利子補給	33,600	日中活動支援
(合 計)				129,724,238	

5 地域における公益的取り組みに関する状況等

平成 28 年改正社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 28 年 4 月から、「地域における公益的な取組」の実施が法人の責務として位置づけられました。当法人としても、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウ、地域の関係者とのネットワークを活かしながら、当該取組の実践を通じ地域社会へ貢献していきます。今年度の取り組みについては以下のとおりです。

取組類型	取り組みの名称 (対象者)	目的	成果
地域の要支援者に対する配食、見守り、移動支援等の生活支援	お助け隊の派遣 (独居高齢者)	バザー一品改修と同時に自宅の方で毛のお手伝いを無償で提供する。	延べ 8 件の依頼に対して対応。
	かけこみ 110 番の家 (地域小学校の児童)	地域学区の「かけこみ 110 番の家」に登録	登録事業所付近は、店舗も少なく該当もまばらなため、地域の小学生の安心につながる。
地域住民に対する福祉教育	手つ学カフェ (地域住民・福祉関係者)	地域福祉課題について地域住民・団体との対話と学び合い	災害時要援護者の個別避難支援計画を共有することで、災害の要援護者に対する地域理解を深めた。
	親子・小学生クッキング (近隣の未就学児 小学生の親子 地域学区の小学生)	生活介護事業所で近隣の親子とともにお菓子屋やパン作りをすることにより、しょうがいのあるかたを身近に感じてもらう	毎回定員を超える申込があり、活動をとおしてしょうがい理解につながる。
その他	生活困窮者に対する就労体験実習 (生活困窮者)	様々な要因で就業の機会から離れている方に対して、【仙台市生活自立・仕事相談センター（わんすてっふ）】が相談窓口となり、【当法人】が就労体験の場を提供し、一般就労に向けた支援を行う	青葉区 2 名、太白区 1 名の方に対して福祉の職場見学を実施。うち 2 名に対して就労体験の受け入れを行う。

上記取り組みの他、地域向けサロンやイベントを通じ地域の関係者とのネットワーク作りを行い、地域課題の掘り起こしと課題の検討及び情報交換の機会を各事業所で持ちました。今後も新たな地域ニーズに対して積極的に対応していきます。